

第1次 新城市総合計画

# 資料編

総合計画審議会

策定委員会・専門部会

総合計画策定経緯

住民アンケート・ワークショップ等の結果



○ 総合計画審議会 諮問書

新 企 ～ 1・2・4  
平成19年 2月28日

新城市総合計画審議会会長 様

新城市長 穂 積 亮 次

新城市総合計画について（諮問）

新城市総合計画審議会条例第2条の規定に基づき、新城市総合計画（基本構想）の策定について、貴審議会の意見を求めます。

○ 総合計画審議会 答申書

平成20年2月14日

新城市長 穂積亮次 殿

新城市総合計画審議会  
会長 大 貝 彰

第1次新城市総合計画「基本構想」について（答申）

平成19年2月28日付、新企～1・2・4で諮問のありました「第1次新城市総合計画について」につきましては、当審議会において第1次新城市総合計画「基本構想」(案)等について慎重に審議した結果、別添のとおり答申いたします。

なお、基本構想（以下、「本計画」という。）につきましては、市政運営の指針として活用されるとともに、下記事項に留意され、めざす将来像「市民がつなぐ 山の湊 創造都市」の実現にあたられますよう要望します。

記

- 1 本計画は、地方分権の流れや社会経済情勢等を受け、「新たな公共の視点」「みんなで使う視点」、「行政経営の視点」に基づき、「新たな公共が導く市民自治社会の実現」をまちづくりの基本理念とした計画であることから、広く市民への周知に努めるとともに、本計画の実施にあたっては、市民の幅広い参画を図られたい。

- 2 本計画の大きな特徴の一つは、本計画を「経営戦略プラン」として位置づけたことにある。「市民自治社会創造」、「自立創造」、「安全・安心のくらし創造」、「環境首都創造」のまちづくりの4つの基本戦略と、基本計画に示した「財政ビジョン」、「行政改革ビジョン」、「人材育成ビジョン」、「情報ビジョン」の4つの行政経営ビジョンに沿って、持続可能な地域社会の創造に努められたい。
- 3 市民自治社会をめざした地域内分権の試みは、市民や職員の理解と協力なしでは実現できず、単なる「地域自治組織への権限委譲」は、必ずしも市民主体の地域課題の解決には結びつかない。分権の対象となる地域課題や地域活動、組織・体制についての具体的な議論を重ね、市民に一方的に負担を押し付ける形で仕組みづくりが進むことがないように留意されたい。
- 4 本計画の実施にあたっては、財政ビジョンに基づく効率的な財政運営に努めるとともに、常に計画の進捗状況を市民が認識できる進捗管理システムの充実に努められたい。
- 5 本市の厳しい財政状況や社会経済情勢の変化、市民ニーズ等を踏まえ、国、県、近隣市町村、各種機関・団体等との緊密な連携を図りながら、計画の着実な執行を図られたい。

以上

穂積市長へ総合計画基本構想を答申する  
大貝 彰 審議会会長



## ○ 総合計画審議会 委員名簿

## 新 城 市 総 合 計 画 審 議 会 委 員 名 簿

区 分	人 数	役 職 等	氏 名
(1) 市議会の議員	4名	総務文教委員長	○夏目勝吾
		福祉病院委員長	太田善市
		経済環境委員長	小川賢治
		建設消防委員長	菊地勝昭
(2) 市教育委員会の委員	1名	教育委員会 委員長	菅沼昌人
(3) 市農業委員会の委員	1名	農業委員会 会長	野澤安雄
(4) 市内の各種団体の代表者	8名	新城市商工会 会長	本多克弘
		愛知東農業協同組合 代表理事組合長	河合勝正
		新城森林組合 代表理事組合長	平田喜好
		新城市老人クラブ連合会 会長	鈴木宏幸
		新城市社会福祉協議会 会長	藤原眞治
		地区代表区長 新城地区	加藤末四郎
		地区代表区長 鳳来地区	大谷卓三
		地区代表区長 作手地区	林孝夫
(5) 学識経験を有する者	6名	豊橋技術科学大学 教授	◎大貝彰
		(社)東三河地域研究センター 常務理事	戸田敏行
		社会福祉法人 新城福社会 理事長	夏目みゆき
		(児童)	中谷昌美
		(教育)	下山由美子
		(児童)	佐々木年恵
(6) 住民を代表する者	5名	公 募	松本貴美德
		公 募	筒井光治
		公 募	大谷至弘
		公 募	花井敏明
		公 募	吉田淳
合 計	25名		

※ ◎印は会長、○印は副会長。

※ 各委員の役職は委嘱時（平成19年2月28日現在）の役職名。「公募」は公募による委員を、「(児童)」「(教育)」は専門とする分野を表す。

○総合計画審議会条例

新城市総合計画審議会条例

平成17年10月1日

条例第18号

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、新城市総合計画審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(任務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ総合計画について、調査審議し、その結果を市長に答申する。

(組織)

第3条 審議会は、委員25人以内で組織する。

- 2 審議会に会長及び副会長各1人を置く。
- 3 会長は、委員の互選とし、副会長は、会長が選任する。
- 4 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。
- 5 副会長は、会長を助け、会長に事故がある場合に、その職務を代理する。

(委員)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから必要の都度、市長が委嘱する。

- (1) 市議会の議員
  - (2) 市教育委員会の委員
  - (3) 市農業委員会の委員
  - (4) 市内の各種団体の代表者
  - (5) 学識経験を有する者
  - (6) 住民を代表する者
- 2 委員は、当該諮問に係る審議が終了したときは、解嘱されるものとする。

(顧問)

第5条 審議会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、審議会の推薦により市長が委嘱する。
- 3 顧問は、審議会に出席し意見を述べることができる。

(会議)

第6条 会長は、審議会を招集し、その会議の議長となる。

- 2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ議事を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(幹事及び調査員)

第7条 審議会に調査又は審議を補助するため幹事及び調査員を置くことができる。

- 2 幹事及び調査員は、市の職員その他適当と認める者のうちから、市長が任命又は委嘱する。
- 3 幹事は、審議会に出席し、意見を述べるができる。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、企画部企画課において処理する。

(委任)

第9条 この条例の定めるもののほか、審議会の運営に関し必要なことは、別に市長が定める。

附 則

この条例は、平成17年10月1日から施行する。

○ 総合計画策定委員会 委員名簿

区 分	平成 18 年度		平成 19 年度		備 考
	役 職	氏 名	役 職	氏 名	
委員長	助 役	林 正 司	副 市 長	林 正 司	
副委員長	企 画 部 長	鈴 木 久 雄	企 画 部 長	鈴 木 久 雄	
委 員	教 育 長	和 田 守 功	教 育 長	和 田 守 功	
〃	管理調整部長	河 合 教 司	総 務 部 長	墨 岡 孝 始	
〃	総 務 部 長	墨 岡 孝 始	市 民 部 長	岡 本 和 久	
〃	市 民 部 長	岡 本 和 久	福 祉 健 康 部 長	小 林 薫	
〃	福 祉 健 康 部 長	小 林 薫	経 済 部 長	鈴 木 啓 史	
〃	経 済 部 長	鈴 木 啓 史	生 活 環 境 部 長	原 田 貞 幸	
〃	生 活 環 境 部 長	原 田 貞 幸	建 設 部 長	古 市 知 久	H19.10.1より 菅谷正昭
〃	建 設 部 長	古 市 知 久	水 道 事 業 部 長	平 田 義 則	
〃	水 道 事 業 部 長	平 田 義 則	鳳 来 総 合 支 所 長	黒 田 厚 志	
〃	鳳 来 総 合 支 所 長	黒 田 厚 志	作 手 総 合 支 所 長	河 合 正	
〃	作 手 総 合 支 所 長	池 田 定 利	市 民 病 院 経 営 管 理 部 長	世 古 和 美	
〃	市 民 病 院 経 営 管 理 部 長	世 古 和 美	消 防 長	河 合 教 司	
〃	消 防 長	加 藤 晃	教 育 部 長	夏 目 勝 雄	
〃	教 育 部 長	夏 目 勝 雄	議 会 事 務 局 長	加 藤 久 夫	
〃	議 会 事 務 局 長	小 林 二 三 夫	監 査 委 員 事 務 局 長	平 野 恒 夫	

○ 事務局

※総合計画策定担当事務局

平成 18 年度				平成 19 年度			
所 属	役 職	氏 名	備 考 (担当専門部会)	所 属	役 職	氏 名	備 考 (担当専門部会)
企画部	部 長	鈴 木 久 雄		企画部	部 長	鈴 木 久 雄	
企画部 企画課	課 長	夏 目 修	(総合部会)	企画部 企画課	副 部 長 兼 課 長	夏 目 修	(総合協働部会)
企画部 企画課	副 課 長	熊 谷 昌 紀	(行財政部会)	企画部 企画課	参 事 (県派遣)	細 井 功	(安全安心部会)
企画部 企画課	主 査	柿 原 紀 宏	(産業部会)	企画部 企画課	副 課 長	熊 谷 昌 紀	(住環境部会)
				企画部 企画課	主 査	佐 宗 太 賀 男	(総合協働部会)
				企画部 企画課	主 任	松 井 哲 也	(自然環境部会)

※専門部会担当事務局（平成18年度）

※専門部会担当事務局（平成19年度）

企画部(県派遣)	副 部 長	矢 野 浩 二	(住民参加 協働部会)	企画部 企画課	主 査	松 本 博 也	(教育文化部会)
企画部 企画課	参 事	原 田 哲 夫	(安全安心部会)	企画部 企画課	主 査	古 田 孝 志	(行財政部会)
企画部 企画課	主 査	榊 原 法 之	(住環境部会)	企画部 企画課	主 査	田 中 秀 典	(産業部会)
企画部 企画課	主 査	松 本 博 也	(教育文化部会)				
企画部 企画課	主 査	豊 田 卓 孝	(自然環境部会)				

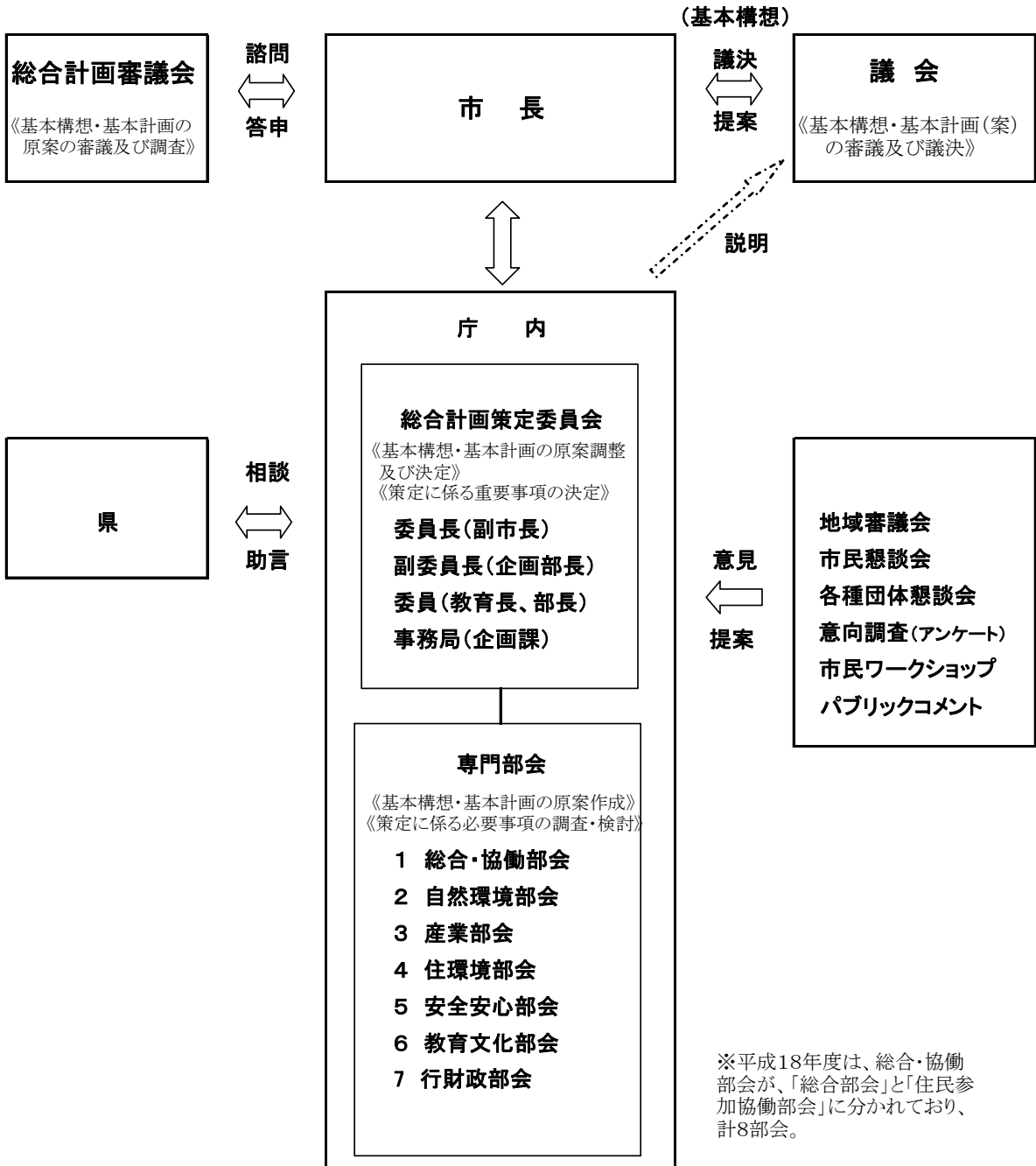
○総合計画専門部会 委員名簿

平成18年度					平成19年度								
部会	所 属	課 室 名	役 職	氏 名	部会	所 属	課 室 名	役 職	氏 名				
① 総合部会	本 庁	財 政 課	副課長	◎夏目道弘	① 総合・協働部会	本 庁	じょうほう課	課長	◎原田哲夫				
		行政改革課	主 査	○佐宗太賀男			高規格道路課	副課長	○内藤幹生				
		都市計画課	主 査	佐々木敏宏			総務課	副課長	森下雄司				
		監査委員事務局	主 査	柴田修治			監査委員事務局	主 査	柴田修治				
	作手総合支所	地域振興課	副課長	荻野利孝		都市計画課	主 査	佐々木敏宏					
	市民福祉課	主 査	林治雄	じょうほう課		副課長	服部園子						
② 自然環境部会	本 庁	下水道課	主 査	◎清水良文		② 自然環境部会	本 庁	じょうほう課	主 査	福田清子			
		建設課	副課長	○小石清人				地域振興課	主 査	瀬野尾充彰			
	鳳来総合支所	農業振興課	副課長	半田守利			鳳来総合支所	地域振興課	主 査	加藤良一			
	本 庁	循環社会推進課	主 査	西村仁志			作手総合支所	本 庁	環境課	参事	◎伊藤道子		
		土木課	主 査	星野隆彦	環境課				主 査	西村仁志			
水道課		主 査	中西幸成	環境課	主 査				杉浦達也				
鳳来総合支所	水道環境課	主 査	鈴木誠一	農業振興課	主 査			星野隆彦					
③ 産業部会	本 庁	農業振興課	副課長	◎伊藤寿規	③ 産業部会			本 庁	土木課	主 査	小笠原伸吉		
		森林政策課	副課長	○佐宗義友					水道課	主 査	山本光昭		
	鳳来総合支所	商工観光課	副課長	今泉公利				総務課	主 査	松下領治			
	作手総合支所	地域振興課	主 査	今泉千秋		森林政策課		主 査	松下浦彰				
		経済課	主 査	望月泰宏		文化課		主査・館長	加藤貞亨				
建設課		主 査	坂野公彦	鳳来総合支所		経済建設課		副課長	○小石清人				
④ 住環境部会	本 庁	都市計画課	副課長	◎山崎敏勝		④ 住環境部会	本 庁	農業振興課	参事	◎伊藤寿規			
		循環社会推進課	副課長	○清水照治				森林政策課	副課長	○佐宗義友			
		施設課	主 査	中尾嘉伸				商工課	副課長	今泉公利			
		土木課	主 査	小笠原伸吉				観光課	主 査	井上尚子			
	水道課	主 査	山本光昭	鳳来総合支所	経済建設課		副課長	望月泰宏					
作手総合支所	下水道課	主 査	長谷川泰史	作手総合支所	地域振興課		主 査	今泉千秋					
⑤ 安全安心部会	本 庁	水道環境課	副課長	荻野喜嗣男	⑤ 安全安心部会		本 庁	地域整備課	主 査	坂野公彦			
		介護高齢課	副課長	◎夏日孝温				作手総合支所	本 庁	都市計画課	副課長	◎山崎敏勝	
		市民安全対策室	副室長	○村田道博						下水道課	副課長	○清水良文	
		保険医療課	主 査	藤原久子						じょうほう課	主 査	榊原法之	
	福祉課	副課長	老平誠	環境課		主 査	鈴木重幸						
市民病院	児童課	副課長	請井浩二	生活衛生課		主 査	中尾嘉伸						
⑥ 教育文化部会	本 庁	総務課	主 査	天野雅之		⑥ 教育文化部会	本 庁		土木課	主 査	中西幸成		
		消防本部	総務課	副課長					宮部憲蔵	水道課	主 査	柿原紀宏	
		鳳来総合支所	鳳来教育課	副課長					◎山内祥二	下水道課	主 査	長谷川泰史	
		本 庁	学校教育課	副課長					○内藤安紹	作手総合支所	本 庁	地域整備課	副課長
	指導室		主 査	鈴木勇人	⑦ 住民参加協働部会		本 庁		福祉課			副部長	◎村川賢一
生涯学習課	副課長		原田哲治	介護高齢課				副課長	○夏日孝温				
出納管理室	主 査	飯尾ちづ子	市民安全対策室	副室長				○村田道博					
議事調査課	主 査	西尾泰昭	健康課	参事				森下泰孝					
作手総合支所	作手教育課	主 査	佐宗勝美	保険医療課			主 査	城所克巳					
⑦ 住民参加協働部会	本 庁	生涯学習課	副課長	◎森下雄司			⑦ 住民参加協働部会	本 庁	児童課		主 査	古市幸一	
		高規格道路推進室	副室長	○内藤幹生		総務課			主 査		建部圭一		
		行政改革課	主 査	建部圭一		議事調査課			主 査		西尾泰昭		
		市民課	主 査	小林隆江		消防本部			総務課		副課長	宮部憲蔵	
	健康課	主 査	坂本茂昭	市民病院		総務課		副課長	天野雅之				
鳳来総合支所	税務課	主 査	杉山典久	⑧ 行財政部会	本 庁	庶務課		課長	◎内藤安紹				
本 庁	市民福祉課	主 査	小澤正伸			⑧ 行財政部会		本 庁	文化課	副課長	○山内祥二		
	財政課	副課長	◎中島勝						作手総合支所	本 庁	生涯学習課	主 査	片桐敏行
	用地課	副課長	○鈴木邦夫								スポーツ課	主 査	佐宗勝美
	行政改革課	主 査	古田孝志								学校教育課	主 査	鈴木勇人
	行政課	主 査	夏目昌宏	福祉課	主 査		鈴木隆司						
人事課	主 査	浅賀邦久	鳳来総合支所	地域振興課	副課長	原田哲治							
秘書広報課	主 査	老平千昌	⑨ 行財政部会	本 庁	財政課	課長	◎夏目道弘						
税務課	主 査	片桐厚史			⑨ 行財政部会	本 庁	契約管財課	副課長	○中島勝				
◎は部会長 ○は副部会長							作手総合支所	本 庁	総務課	主 査	夏目昌宏		
									本 庁	⑨ 行財政部会	人事課	副課長	浅賀邦久
											本 庁	⑨ 行財政部会	秘書室
			本 庁	⑨ 行財政部会									庶務課
					本 庁	⑨ 行財政部会							用地課

◎は部会長 ○は副部会長

○ 総合計画策定体制図

新城市総合計画策定体制（平成19年度）





○総合計画策定委員会設置要綱

新城市総合計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 新城市総合計画（以下「総合計画」という。）の策定のため、新城市総合計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の事項を所掌する。

- (1) 総合計画の基本構想及び基本計画の原案の調整及び決定
- (2) 総合計画策定に関する重要事項の決定

(組織)

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

2 委員長は助役、副委員長は企画部長、委員は市長が命じた職員とする。

(委員長)

第4条 委員長は、会務を総理する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、その会議の議長となる。

2 委員会は、必要に応じ関係職員を出席させることができる。

(専門部会の設置)

第6条 委員会の補助機関として、専門部会を設置する。

2 専門部会は、次の事項を所掌する。

- (1) 総合計画の基本構想及び基本計画の原案作成
- (2) 総合計画策定に関する必要事項の調査及び検討

3 専門部会は、市長が命じた職員で、部会長、副部会長及び部会員をもって組織する。

(専門部会の会議)

第7条 専門部会は、部会長が招集し、その会議の議長となる。

2 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、企画部企画課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成18年7月18日から施行する。

### 3 総合計画策定経緯

#### ○ 総合計画策定経緯 【平成18年度～平成19年度】

##### ●市議会

意見交換会	平成19年 9月12日(水)	基本構想案の質疑応答
総務文教部会	平成20年 2月15日(金)	基本構想案の説明
議案説明会	平成20年 2月21日(木)	基本構想案の説明
一般質問	平成20年 3月10日(月) 平成20年 3月11日(火)	基本構想案の質疑応答
総合計画基本構想特別委員会	平成20年 3月18日(火)	基本構想案の質疑応答
議決	平成20年 3月21日(金)	基本構想議決

##### ●審議会

第1回	平成19年 2月28日(水)	委員委嘱、会長・副会長選任、策定方針調整
第2回	平成19年 7月30日(月)	アンケート調査及びワークショップ結果の概要報告 基本構想案の審議
第3回	平成19年 8月23日(木)	基本構想案の審議
第4回	平成19年 9月26日(水)	アンケート調査及びワークショップ結果の報告 基本構想案の審議
第5回	平成19年11月20日(火)	アンケート調査結果の報告 基本構想案の審議
第6回	平成19年12月20日(木)	基本計画案の審議
第7回	平成20年 1月10日(木)	パブリックコメント実施結果の報告 実施計画案の審議
第8回	平成20年 2月 7日(木)	総合計画全体の審議
第9回	平成20年 2月14日(木)	総合計画全体の審議 基本構想答申

##### ●策定委員会

第1回	平成18年 8月 7日(月)	計画期間・策定体制、計画の構成の検討
第2回	平成19年 2月19日(月)	策定方針・審議会の設置の検討、専門部会の進捗報告
第3回	平成19年 4月18日(水)	専門部会再編趣旨の報告
第4回	平成19年 5月21日(月)	専門部会の再編結果報告 基本構想骨子案の検討
第5回	平成19年 7月17日(火)	基本構想案の検討
第6回	平成19年 7月24日(火)	基本構想案の検討
第7回	平成19年 9月19日(水)	アンケート調査結果の報告 基本構想案の検討
第8回	平成19年11月16日(金)	アンケート調査結果の報告 基本構想案の検討
第9回	平成19年12月28日(金)	パブリックコメント実施結果の報告 基本計画案の検討
第10回	平成20年 2月 4日(月)	基本計画案の検討

### 3 総合計画策定経緯

#### ●専門部会（当初8部会、平成19年4月に7部会に再編）

全体会	第1回 平成18年 9月 5日(火)	策定体制・スケジュール・策定方針説明
	第2回 平成19年 5月31日(木)	部会再編、策定スケジュール、基本構想骨子案
部会長・ 副部会長会	平成19年 2月 1日(木)	市長ミーティング結果
	平成19年 4月13日(金)	今後の進め方、専門部会の進め方
	平成19年 9月27日(木)	実施計画シートの作成依頼
	平成19年11月 1日(木)	実施計画シートの検討
各部会	平成18年 9月から 平成20年 2月まで	検討会議を随時開催
市長と部会の ミーティング	平成19年1月23日(火)、 24日(水)、25日(木)	各部会での検討結果と市長意見の調整
実施計画主要 事業説明会	平成19年 5月16日(水)	策定の進捗状況・成果指標等の説明

#### ●市政経営会議

平成19年度	方針等を随時調整、決定
--------	-------------

#### ●市長・副市長と事務局のミーティング

平成18年度から	随時実施
----------	------

#### ●市政報告・懇談会

平成19年9月25日(水)から 平成19年10月29日(月)まで19回	質疑応答（19会場 664名参加）
--	-------------------

#### ●ワークショップ

平成19年6月30日(土)、7月6日(金) 7月20日(金)の3回	4テーマについて議論（のべ70名参加）
--------------------------------------	---------------------

#### ●各種団体ヒアリング

平成19年6月8日(金)から 平成19年 7月25日(金)まで12回	各種団体の意見の把握(27団体)
---------------------------------------	------------------

#### ●パブリックコメント

平成19年11月26日(月)から 平成19年12月25日(火)まで	4名より意見提出あり
--------------------------------------	------------

#### ●地域審議会

平成19年8月6日(月)	新城地域審議会では基本構想を説明、意見把握
平成19年8月7日(火)	鳳来地域審議会、作手地域審議会では基本構想を説明、意見把握

#### ●市ホームページ

平成18年度から 随時更新	策定状況、審議会の記録など
---------------	---------------

#### ●記者発表

平成19年 2月22日(木)	第1回総合計画審議会の開催
平成19年 6月 1日(金)	ワークショップ参加者募集
平成19年 6月28日(木)	ワークショップの開催
平成19年 7月27日(金)	第2回総合計画審議会の開催
平成19年11月29日(木)	基本構想案のパブリックコメント
平成20年 2月 8日(金)	基本構想案答申日時

#### ●市広報紙「ほのか」記事

平成19年 8月号	策定経過
平成19年 9月号	ワークショップ開催結果
平成19年11月号	アンケート調査結果
平成19年12月号	パブリックコメント募集案内
平成20年 4月号	答申状況
平成20年 5月号	策定結果

○住民アンケートの結果 【一般住民】

## 総合計画住民アンケート 調査結果 (一般住民5,000人分)

### 1. 調査目的

住民の方々の公共サービスの満足度やまちづくりについての考えを把握し、計画策定にあたっての参考とすることを目的とします。

なお、本調査は、中学生アンケートと併せて実施しました。

### 2. 調査項目

別添「調査票」のとおり。

### 3. 調査方法

	一般住民
(1) 調査地域	新城市内全域
(2) 調査対象	市内に在住する満18歳以上の住民
(3) 配布数	5,000人
(4) 抽出法	無作為抽出 (注1)
(5) 調査方法	郵送による配布、回収
(6) 調査期間	平成19年6月8日(金)～6月22日(金) (注2)

(注1) 住民基本台帳より、地区(旧市町村)別、年齢階層別、男女別の抽出率を設定

(注2) 調査期間締め切り後も返送が続いたため、7月13日(金)到着分(締め切り後3週間)までを集計

### 4. 回収結果

	一般住民
配布数	5,000
有効回収数	2,716
有効回収率	54.3%

(注3) 一般住民分については、2,723票の回収を得ましたが、うち7票は白紙等であったため、2,716票を有効回収数としました。

### 5. 注意事項

- (1) 比率については、小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100%にならないことがあります。
- (2) 回答率の母数は、原則としてその質問の回答者数であり、図表では「n」と表示しています。「n」の表示がない場合は、本調査の有効回収数(一般住民:2,716)が「n」になります。

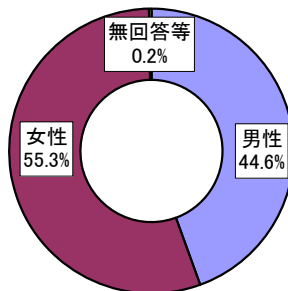
## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

### 回答者の属性

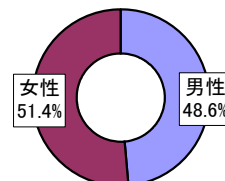
問1. あなたの性別は。

回答者の性別は、男性が44.6%、女性が55.3%、無回答等が0.2%となっています。

区分	回答数	構成比
男性	1,210	44.6%
女性	1,501	55.3%
無回答等	5	0.2%
計	2,716	100.0%



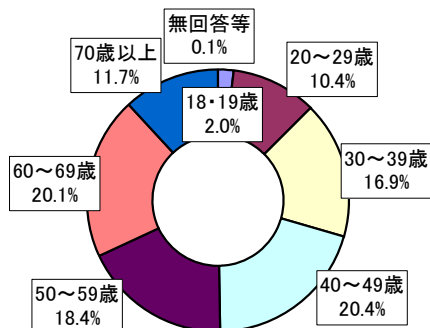
参考: 新城市の18歳以上の性別  
(H19.6.1住民基本台帳)



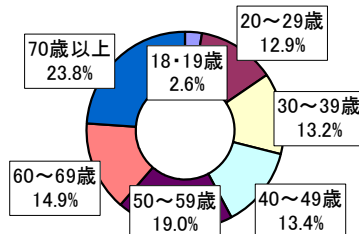
問2. あなたの年齢は。

回答者の年齢は、40～49歳が20.4%と最も多く、以下、60～69歳(20.1%)、50歳～59歳(18.4%)、30～39歳(16.9%)、70歳以上(11.7%)、20～29歳(10.4%)、18・19歳(2.0%)、無回答等(0.1%)となっています。

区分	回答数	構成比
18・19歳	53	2.0%
20～29歳	283	10.4%
30～39歳	460	16.9%
40～49歳	555	20.4%
50～59歳	499	18.4%
60～69歳	545	20.1%
70歳以上	319	11.7%
無回答等	2	0.1%
計	2,716	100.0%



参考: 新城市の18歳以上の年代別人口割合  
(H19.6.1住民基本台帳)

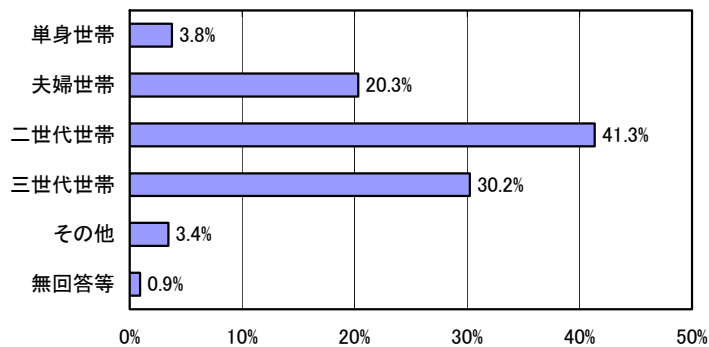


## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問3. あなたの家族構成は。

回答者の家族構成は、二世世代世帯が41.3%と最も多く、以下、三世世代世帯（30.2%）、夫婦世帯（20.3%）、単身世帯（3.8%）、その他（3.4%）、無回答等（0.9%）となっています。

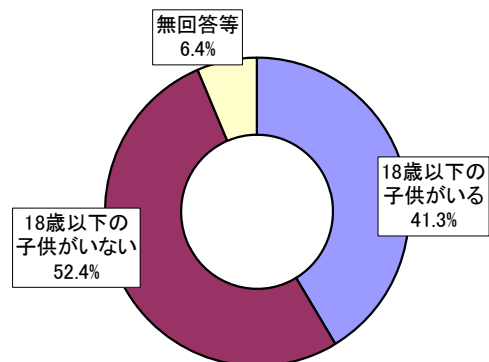
区分	回答数	構成比
単身世帯	102	3.8%
夫婦世帯	552	20.3%
二世世代世帯（親と子供の世帯）	1,123	41.3%
三世世代世帯（親と子供と孫の世帯）	821	30.2%
その他	93	3.4%
無回答等	25	0.9%
計	2,716	100.0%



問4. あなたの世帯の18歳以下の子供は。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

回答者のうち、世帯に18歳以下の子供がいる人は41.3%、いない人は52.4%、無回答等は6.4%となっています。

区分	回答数	構成比
幼児	401	14.8%
小学生	523	19.3%
中学生	371	13.7%
高校生	350	12.9%
その他の18歳以下の子供	37	1.4%
小計（18歳以下の子供がいる）	1,121	41.3%
いない	1,422	52.4%
無回答等	173	6.4%
計	2,716	100.0%

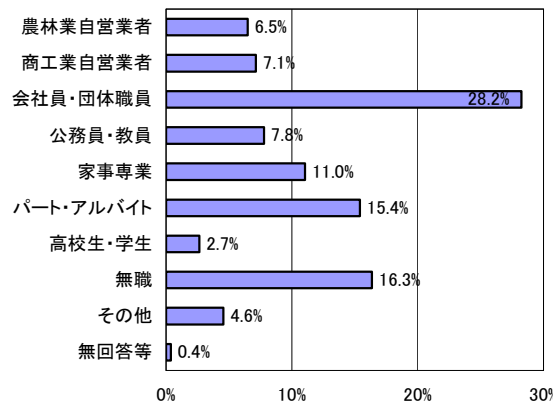


#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問5. あなたの職業は。

回答者の職業は、会社員・団体職員が28.2%と最も多く、以下、無職（16.3%）、パート・アルバイト（15.4%）、家事専業（11.0%）、公務員・教員（7.8%）、商工業自営業者（7.1%）、農林業自営業者（6.5%）、その他（4.6%）、高校生・学生（2.7%）、無回答等（0.4%）となっています。

区分	回答数	構成比
農林業自営業者	176	6.5%
商工業自営業者	194	7.1%
会社員・団体職員	767	28.2%
公務員・教員	211	7.8%
家事専業	300	11.0%
パート・アルバイト	418	15.4%
高校生・学生	72	2.7%
無職	444	16.3%
その他	124	4.6%
無回答等	10	0.4%
計	2,716	100.0%

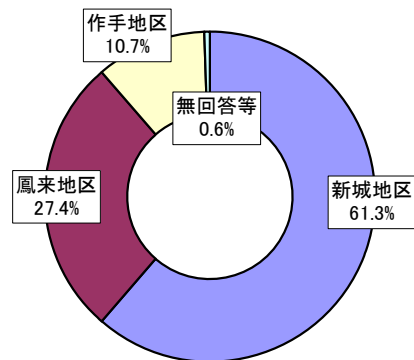
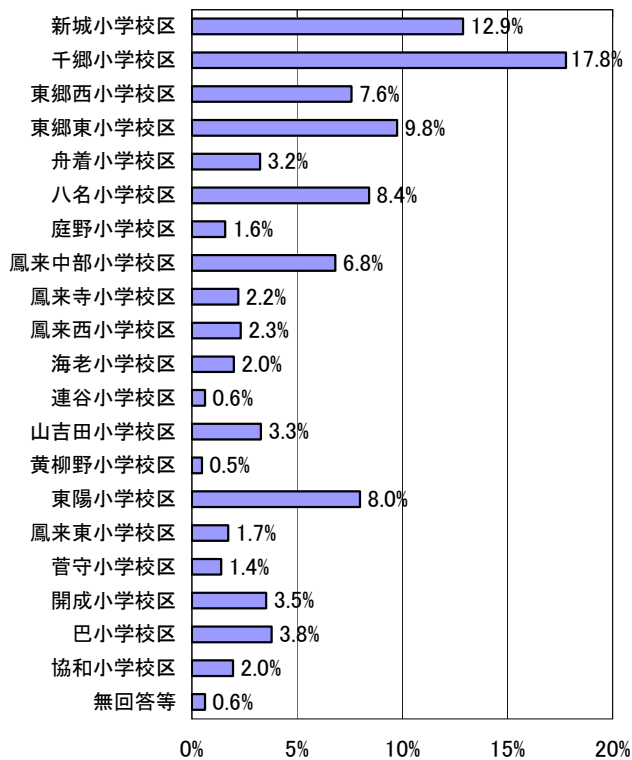


問6. あなたがお住まいの小学校区は。

回答者の居住小学校区は、千郷が17.8%と最も多く、以下、新城（12.9%）、東郷東（9.8%）、八名（8.4%）、東陽（8.0%）、東郷西（7.6%）、鳳来中部（6.8%）、巴（3.8%）、開成（3.5%）、山吉田（3.3%）、舟着（3.2%）、鳳来西（2.3%）、鳳来寺（2.2%）、海老（2.0%）、協和（2.0%）、鳳来東（1.7%）、庭野（1.6%）、菅守（1.4%）、連谷（0.6%）、黄柳野（0.5%）、無回答等（0.6%）となっています。  
これを旧市町村の地区別にすると、新城地区が61.3%、鳳来地区27.4%、作手地区10.7%となります。

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

区分		回答数	構成比
新城地区	新城小学校区	350	12.9%
	千郷小学校区	483	17.8%
	東郷西小学校区	206	7.6%
	東郷東小学校区	265	9.8%
	舟着小学校区	88	3.2%
	八名小学校区	229	8.4%
	庭野小学校区	43	1.6%
鳳来地区	鳳来中部小学校区	185	6.8%
	鳳来寺小学校区	60	2.2%
	鳳来西小学校区	63	2.3%
	海老小学校区	54	2.0%
	連谷小学校区	17	0.6%
	山吉田小学校区	89	3.3%
	黄柳野小学校区	13	0.5%
	東陽小学校区	217	8.0%
	鳳来東小学校区	47	1.7%
作手地区	菅守小学校区	38	1.4%
	開成小学校区	96	3.5%
	巴小学校区	103	3.8%
	協和小学校区	53	2.0%
無回答等		17	0.6%
計		2,716	100.0%



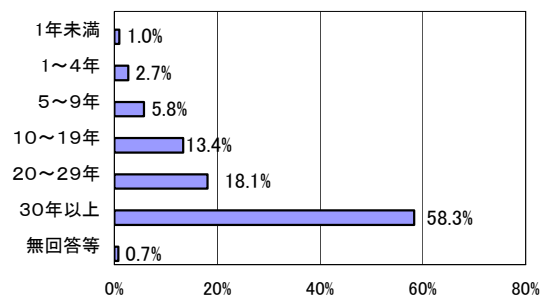


## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問7. あなたは、現在の市町村にお住まいになって何年になりますか。旧市町村を含めた通算年数でお答えください。

回答者の居住年数は、30年以上が58.3%と最も多く、以下20～29年（18.1%）、10～19年（13.4%）、5～9年（5.8%）、1～4年（2.7%）、1年未満（1.0%）、無回答等（0.7%）となっています。

区分	回答数	構成比
1年未満	26	1.0%
1～4年	74	2.7%
5～9年	157	5.8%
10～19年	364	13.4%
20～29年	492	18.1%
30年以上	1,583	58.3%
無回答等	20	0.7%
計	2,716	100.0%



### 定住意向

問8. あなたは、今後も新城市内に住みたいですか。あてはまるお考え・理由に1つだけ○印をつけてください。

定住意向については、「住みたい」と回答した人が8割近くとなっています。その理由は、「家族と一緒に住みたいから」が最も多く、次いで、「豊かな自然に恵まれているから」、「友人や知人、親せきなどがいて安心して住めるから」となっています。

地区別、年齢別にみると、以下のような特性がみられます。

#### 【地区別】

新城地区：「住みたい」と回答した割合が3地区で最も高くなっています。その理由として、「友人や知人、親せきなどがいて安心して住めるから（15.8ポイント）」と回答した人の割合が、他地区と比較して高くなっています。

鳳来地区：「移転したい」と回答した割合が3地区で最も高くなっています。その理由として、「この地域に魅力的な働く場がないから」と回答した人の数が最も高くなっています。

作手地区：「住みたい」理由として、「豊かな自然に恵まれているから（24.1ポイント）」と回答した人の割合が、他地区と比較して高くなっています。

#### 【年齢別】

年齢階層が高くなるに従って定住意向は高くなっています。

「住みたい」と回答した理由は、30歳以上の階層では「家族と一緒に住みたいから」と回答した人の割合が最も高くなっていますが、18～29歳では「この地域や通勤できる範囲で働くつもりだから」と回答した人の割合が最も高くなっています。

「移転したい」と回答した理由は、どの年齢階層でも「この地域に魅力的な働く場がないから」と回答した人の割合が最も高くなっています。

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

【総計】

区分	回答数	構成比	項目別構成比
<b>住みたい</b>			
家族と一緒に住みたいから	803	29.6%	38.0%
この地域や通勤できる範囲で働くつもりだから	261	9.6%	12.4%
友人や知人、親せきなどがいて安心して住めるから	383	14.1%	18.1%
豊かな自然に恵まれているから	471	17.3%	22.3%
地域社会の活動やつながりが充実しているから	66	2.4%	3.1%
その他	127	4.7%	6.0%
小計	2,111	77.7%	100.0%
<b>移転したい</b>			
この地域に魅力的な働く場がないから	90	3.3%	34.0%
この地域に充実した教育機関がないから	23	0.8%	8.7%
みんなで楽しんだり、遊ぶ施設などがないから	36	1.3%	13.6%
親の移転や結婚などの事情から	17	0.6%	6.4%
その他	99	3.6%	37.4%
小計	265	9.8%	100.0%
<b>その他</b>			
地域外に一時的に移転すると思うが、将来はこの地域で落ち着きたい	47	1.7%	15.7%
わからない	252	9.3%	84.3%
小計	299	11.0%	100.0%
無回答等	41	1.5%	—
計	2,716	100.0%	—

【「住みたい・その他」の主な意見】

- 家や土地があるから・・・34
- 住みやすい、住み慣れているから・・・29
- 仕事があるから・・・7

【「移転したい・その他」の主な意見】

- 医療面で不安だから・・・19
- 日常生活（交通、買い物）が不便だから・・・11
- 行事や近所付き合いが多いから・・・8

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

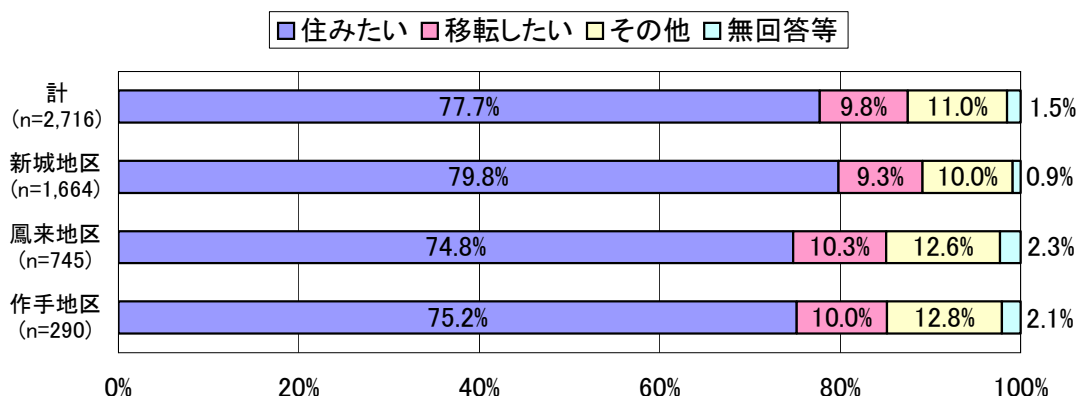
【地区別回答数】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
<b>住みたい</b>			
家族と一緒に住みたいから	512	202	85
この地域や通勤できる範囲で働くつもりだから	159	84	18
友人や知人、親せきなどがいて安心して住めるから	263	96	22
豊かな自然に恵まれているから	271	128	70
地域社会の活動やつながりが充実しているから	42	16	8
その他	81	31	15
小計	1,328	557	218
<b>移転したい</b>			
この地域に魅力的な働く場がないから	49	28	12
この地域に充実した教育機関がないから	13	6	4
みんなで楽しんだり、遊ぶ施設などがないから	26	5	5
親の移転や結婚などの事情から	9	8	0
その他	58	30	8
小計	155	77	29
<b>その他</b>			
地域外に一時的に移転すると思うが、将来はこの地域で落ち着きたい	28	15	4
わからない	138	79	33
小計	166	94	37
無回答等	15	17	6
計	1,664	745	290

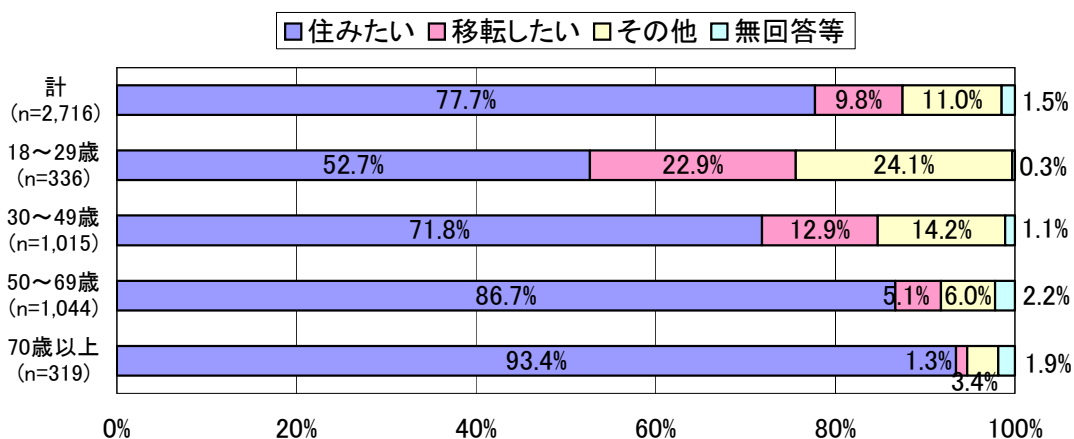
【年齢別回答数】

区分	18～29歳	30～49歳	50～69歳	70歳以上
<b>住みたい</b>				
家族と一緒に住みたいから	49	294	308	152
この地域や通勤できる範囲で働くつもりだから	50	128	79	3
友人や知人、親せきなどがいて安心して住めるから	31	112	177	62
豊かな自然に恵まれているから	32	123	257	59
地域社会の活動やつながりが充実しているから	4	19	34	9
その他	11	53	50	13
小計	177	729	905	298
<b>移転したい</b>				
この地域に魅力的な働く場がないから	32	44	11	3
この地域に充実した教育機関がないから	5	14	4	0
みんなで楽しんだり、遊ぶ施設などがないから	17	14	5	0
親の移転や結婚などの事情から	14	3	0	0
その他	9	56	33	1
小計	77	131	53	4
<b>その他</b>				
地域外に一時的に移転すると思うが、将来はこの地域で落ち着きたい	28	14	5	0
わからない	53	130	58	11
小計	81	144	63	11
無回答等	1	11	23	6
計	336	1,015	1,044	319

【 地区別定住意向 】



【 年齢別定住意向 】



問9. 新城市の定住を促進するため、どのような対策が必要と思われますか。3つまで○印をつけてください。

定住促進対策については、「病院や診療施設などの充実」を選択した人が8割近くもあり、次いで「女性が働きやすい環境づくりや子育て支援制度の充実」、「地場産業や新たな地域内産業の開発による働く場の整備」となっています。

地域別にみると、以下のような特性がみられます。

【地区別】

新城地区：「病院や診療施設などの充実」を選択した人の割合が高くなっています。

鳳来地区：「病院や診療施設などの充実」に次いで、「地場産業や新たな地域内産業の開発による働く場の整備」と回答した人の割合が高くなっています。

作手地区：「病院や診療施設などの充実」に次いで、「通勤圏・生活圏の拡大のための交通基盤整備」と回答した人の割合が高くなっています。

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

##### 【総計】

区分	回答数	選択率
女性が働きやすい環境づくりや子育て支援制度の充実	786	29.2
子供の教育環境の充実	544	20.2
近所付き合いや地域内コミュニティの維持・充実	370	13.7
若い人やファミリー世帯向けの良好な住宅・宅地の供給	406	15.1
通勤圏・生活圏の拡大のための交通基盤整備	662	24.6
地場産業や新たな地域内産業の開発による働く場の整備	756	28.1
企業誘致などによる働く場の整備	623	23.2
買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致	695	25.8
情報通信基盤の整備とソフト面での充実	125	4.6
病院や診療施設などの充実	2,094	77.8
その他	94	3.5
有効回答者数 (=n)	2,691	—

##### 【「その他」の主な意見】

- 行事や近所付き合いの改善・・・10
- 医療の充実・・・7
- スポーツ施設の充実・・・7
- 高齢化社会対策・・・6
- 行財政改革・・・6

##### 【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
女性が働きやすい環境づくりや子育て支援制度の充実	29.6%	27.9%	31.4%
子供の教育環境の充実	19.9%	19.6%	24.4%
近所付き合いや地域内コミュニティの維持・充実	14.6%	11.6%	13.2%
若い人やファミリー世帯向けの良好な住宅・宅地の供給	15.2%	15.9%	12.9%
通勤圏・生活圏の拡大のための交通基盤整備	20.4%	28.5%	38.7%
地場産業や新たな地域内産業の開発による働く場の整備	26.7%	29.3%	33.1%
企業誘致などによる働く場の整備	22.7%	23.5%	25.8%
買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致	28.2%	24.4%	16.0%
情報通信基盤の整備とソフト面での充実	4.1%	5.5%	4.9%
病院や診療施設などの充実	81.4%	74.9%	64.8%
その他	3.7%	3.0%	2.8%
有効回答者数 (=n)	n=1,649	n=741	n=287

住民自治活動や住民と行政の係わり合い

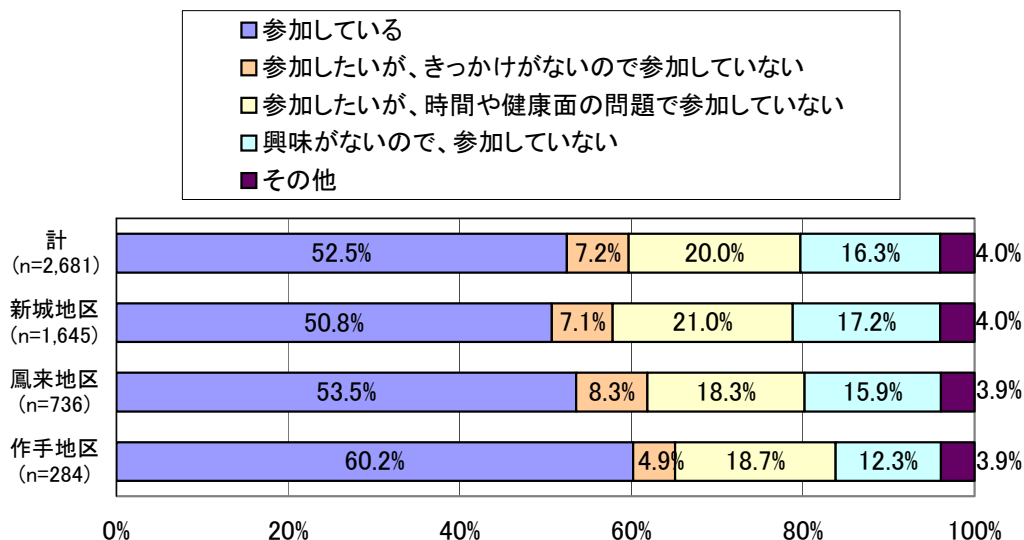
問10. あなたは、地域の住民自治活動に参加していますか。1つだけ○印をつけてください。

地域の住民活動に「参加している」という回答の人が過半数を超えています。一方、「参加していない」という回答の人の理由としては、「興味がない」、「参加したいが時間が取れない」が多くなっていますが、「参加したいがきっかけがない」も1割弱を占めています。地区別にみると、作手地区では「参加している」という回答の人の割合が高く、6割を超えています。

区分	回答数	構成比
参加している	1,408	51.8%
参加したいが、きっかけがないので参加していない	194	7.1%
参加したいが、時間が取れないので参加していない	381	14.0%
参加したいが、健康面の問題で参加していない	154	5.7%
興味がないので、参加していない	437	16.1%
その他	107	3.9%
無回答等	35	1.3%
計	2,716	100.0%

【「その他」の主な意見】

- 親などに任せている・・・12
- 活動自体や活動の意義が分からない・・・9
- 高齢のため参加できない・・・8



## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問11. あなたは地域の住民自治活動の中で、参加・協力していきたいものがありますか。(現在行なっていてさらに継続して参加・協力したいものも含む)  
あてはまるものすべてに○印をつけてください。

地域の住民自治活動への参加・協力については、「地域の清掃・美化、環境保護の活動」が最も多く、次いで「行政区・集落・コミュニティ活動」、「地域で行なうスポーツや趣味のサークル活動」となっています。  
地区別にみると、新城地区では「地域で行なうスポーツや趣味のサークル活動」、鳳来地区では「地域の歴史・文化などの保護伝承活動」、作手地区では「行政区・集落・コミュニティ活動」への参加・協力の割合が、他地区と比較して高くなっています。

### 【総計】

区分	回答数	選択率
行政区・集落・コミュニティ活動	941	39.1
子ども会などの青少年育成活動やPTA、老人クラブ活動	595	24.7
地域で行うスポーツや趣味のサークル活動	931	38.7
地域の清掃・美化、環境保護の活動	964	40.0
障害者支援や老人介護などのボランティア活動	355	14.7
地域の歴史・文化などの保護伝承活動	378	15.7
地域のまちづくりを考える活動や行政への提言・参加	342	14.2
その他	128	5.3
回答者数(n)	2,407	—

### 【「その他」の主な意見】

- 参加、協力したいものがない・・・36
- 高齢、健康の問題で参加できない・・・12
- 子育て支援活動・・・4
- 消防活動・・・3

### 【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
行政区・集落・コミュニティ活動	36.7%	41.2%	48.6%
子ども会などの青少年育成活動やPTA、老人クラブ活動	25.8%	21.5%	27.6%
地域で行うスポーツや趣味のサークル活動	39.3%	38.1%	35.9%
地域の清掃・美化、環境保護の活動	37.1%	44.8%	46.3%
障害者支援や老人介護などのボランティア活動	14.7%	15.1%	13.9%
地域の歴史・文化などの保護伝承活動	15.4%	17.0%	14.3%
地域のまちづくりを考える活動や行政への提言・参加	13.5%	16.0%	13.5%
その他	5.6%	4.0%	6.9%
回答者数(n)	n=1,486	n=648	n=259

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問12. 近年の公共サービスの拡大と行政の財政事情の悪化により、今後の公共サービスを維持するためには、これまでに以上に住民の自主的な活動が期待されています。そこで、今後の公共サービスのあり方についてどのように思われますか。1つだけ○印をつけてください。

今後の公共サービスのあり方について、「行政と住民が一緒になって進めるべきである」という回答の人が最も多く、次いで「行政が住民の声を聞きながら、行政主導で進めるべきである」が多くなっており、この2つの回答で8割以上を占めています。

年齢別にみると、若年層ほど「行政と住民が一緒になって進めるべきである」や「住民が主導となって、行政が支援すべきである」という回答の割合が高く、高齢層ほど「行政が住民の声を聞きながら、行政主導で進めるべきである」や「基本的に行政主体で進めるべきである」という回答の割合が高くなっています。

### 【総計】

区分	回答数	構成比
住民が主導となって、行政が支援すべきである	245	9.0%
行政と住民が一緒になって進めるべきである	1,226	45.1%
行政が住民の声を聞きながら、行政主導で進めるべきである	1,037	38.2%
基本的に行政主体で進めるべきである	122	4.5%
その他	35	1.3%
無回答等	51	1.9%
計	2,716	100.0%

### 【「その他」の主な意見】

- 行政の無駄をなくすことが第一・・・6
- 一概に言えない・・・3
- 行政が住民の声を聞き、反映すべきである・・・3

### 【年齢別回答割合】

区分	18～29歳	30～49歳	50～69歳	70歳以上
住民が主導となって、行政が支援すべきである	12.4%	10.9%	7.4%	5.7%
行政と住民が一緒になって進めるべきである	50.8%	48.4%	44.4%	38.3%
行政が住民の声を聞きながら、行政主導で進めるべきである	32.3%	35.1%	42.4%	47.0%
基本的に行政主体で進めるべきである	3.0%	4.2%	4.8%	7.0%
その他	1.5%	1.4%	1.0%	2.0%
有効回答者数 (=n)	n=331	n=1,006	n=1,026	n=300



## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問13. 公共サービスと住民の費用負担について、どのように思われますか。1つだけ○印をつけてください。

公共サービスと住民の費用負担については、「公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の費用負担が増えることもやむを得ない」という回答の人が7割近くになっています。

年齢別にみると、70歳以上では「公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の費用負担が増えることもやむを得ない」という回答の割合が他の年齢階層と比べて低く、代わりに「住民の負担は増やすべきではないので、公共サービスの低下はやむを得ない」や「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民の費用負担が増えることもやむを得ない」という回答の割合が高くなっています。

### 【総計】

区分	回答数	構成比
公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民の費用負担が増えることもやむを得ない	285	10.8%
公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の費用負担が増えることもやむを得ない	1,794	67.7%
住民の負担は増やすべきではないので、公共サービスの低下はやむを得ない	388	14.6%
その他	182	6.9%
無回答等	67	2.5%
計	2,649	100.0%

### 【「その他」の主な意見】

住民の負担を増やさずに、公共サービスを充実させる・・・36

行政の無駄をなくすこと、コスト削減が第一・・・28

分からない（現状を知らない、住民には不透明）・・・14

行政が必要な公共サービスを見極める・・・10

設問が理解できない、設問内容がおかしい・・・9

### 【年齢別回答割合】

区分	18～29歳	30～49歳	50～69歳	70歳以上
公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民の費用負担が増えることもやむを得ない	10.2%	10.9%	9.4%	15.5%
公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の費用負担が増えることもやむを得ない	63.9%	70.7%	70.3%	53.9%
住民の負担は増やすべきではないので、公共サービスの低下はやむを得ない	16.6%	10.7%	15.2%	23.9%
その他	9.3%	7.8%	5.1%	6.7%
有効回答者数（=n）	n=332	n=999	n=1,019	n=297

公共サービスに対する満足度

問14. 新城市内の公共サービスについて、あなたはどの程度満足していますか。

※ 満足度＝有効回答のうち、「満足」もしくは「やや満足」を選択した回答の割合

設問	満足		やや満足		やや不満		不満		有効回答	無効回答	満足度
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比			
<b>A 福祉・健康分野</b>											
1.子育てを応援するためのサービス	406	17.6	1,080	46.9	616	26.7	201	8.7	2,303	413	64.5
2.高齢者の自立支援や福祉対策	303	12.6	1,197	49.9	711	29.6	189	7.9	2,400	316	62.5
3.障害者の自立支援や福祉対策	236	10.4	1,020	45.0	809	35.7	202	8.9	2,267	449	55.4
4.健康づくり支援の充実	399	16.3	1,201	48.9	663	27.0	192	7.8	2,455	261	65.2
5.地域医療等の充実	90	3.5	301	11.8	720	28.2	1,440	56.4	2,551	165	15.3
6.社会保障制度の充実	133	5.4	649	26.3	964	39.1	722	29.3	2,468	248	31.7
<b>B 教育・文化・生涯学習分野</b>											
1.児童・生徒の教育環境対策	249	10.6	1,062	45.2	758	32.2	282	12.0	2,351	365	55.8
2.学校教育施設の整備	348	14.7	1,110	47.0	645	27.3	261	11.0	2,364	352	61.7
3.文化、芸能等の振興、保存	355	14.8	1,305	54.4	596	24.8	143	6.0	2,399	317	69.2
4.文化施設の整備充実	368	15.1	1,109	45.6	688	28.3	269	11.1	2,434	282	60.7
5.歴史遺産、文化財の保護・活用	401	16.7	1,352	56.5	510	21.3	132	5.5	2,395	321	73.2
6.生涯学習の推進	297	12.5	1,255	52.9	689	29.0	131	5.5	2,372	344	65.4
7.スポーツに親しむ環境づくり	289	12.1	1,205	50.5	682	28.6	212	8.9	2,388	328	62.6
8.青少年の健全育成	234	10.2	1,089	47.4	800	34.8	176	7.7	2,299	417	57.5

C 生活・環境分野											
設問	満足		やや満足		やや不満		不満		有効回答	無効回答	満足度
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比			
1.暮らす場の整備	236	9.8	1,046	43.3	817	33.8	316	13.1	2,415	301	53.1
2.快適な生活道路の整備	203	8.1	933	37.4	926	37.1	434	17.4	2,496	220	45.5
3.憩い空間の充実	194	7.9	843	34.2	959	38.9	472	19.1	2,468	248	42.0
4.通学や生活の足としての公共交通機関等の充実	161	6.5	639	25.7	935	37.6	754	30.3	2,489	227	32.1
5.安全な水の供給	482	19.3	1,326	53.0	523	20.9	172	6.9	2,503	213	72.2
6.衛生的な下水・雨水の処理	322	13.0	1,046	42.3	745	30.1	362	14.6	2,475	241	55.3
7.ごみ・し尿処理への取り組み	369	14.4	1,126	44.1	710	27.8	350	13.7	2,555	161	58.5
8.環境対策への取り組み	229	9.3	1,195	48.3	813	32.9	237	9.6	2,474	242	57.6

D 安全・安心対策分野											
設問	満足		やや満足		やや不満		不満		有効回答	無効回答	満足度
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比			
1.交通安全対策の推進	220	8.6	1,036	40.5	965	37.8	335	13.1	2,556	160	49.1
2.防犯対策への取り組み	248	9.8	1,225	48.4	814	32.1	245	9.7	2,532	184	58.2
3.大地震対策への取り組み	191	7.6	999	39.7	979	38.9	349	13.9	2,518	198	47.3
4.地域の防災組織の充実	296	11.9	1,261	50.7	746	30.0	182	7.3	2,485	231	62.7
5.消防・救急体制の充実	261	10.5	1,167	46.9	831	33.4	229	9.2	2,488	228	57.4

設問	満足		やや満足		やや不満		不満		有効回答	無効回答	満足度
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比			
1.第1次産業（農林水産業）の振興	183	7.8	1,084	45.9	861	36.5	232	9.8	2,360	356	53.7
2.第2次産業（鉱業、建設業、製造業）の振興	126	5.5	938	41.1	981	43.0	235	10.3	2,280	436	46.7
3.第3次産業（サービス業）の振興	104	4.5	716	30.9	1,075	46.5	419	18.1	2,314	402	35.4
4.にぎわいの創出と交流人口対策	160	6.7	890	37.3	961	40.3	372	15.6	2,383	333	44.1
5.便利な市街地・中心街の整備	118	4.9	592	24.8	1,061	44.4	617	25.8	2,388	328	29.7
6.円滑な道路網の整備	190	7.8	958	39.5	881	36.3	398	16.4	2,427	289	47.3
7.市の宣伝・情報提供の充実	140	5.9	807	33.7	1,090	45.5	356	14.9	2,393	323	39.6

設問	満足		やや満足		やや不満		不満		有効回答	無効回答	満足度
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比			
1.市の広報・広聴の充実	291	12.0	1,233	50.8	682	28.1	219	9.0	2,425	291	62.8
2.窓口サービスの応対	418	16.7	1,239	49.6	590	23.6	252	10.1	2,499	217	66.3
3.地域情報化への取り組み	251	10.5	1,054	44.3	779	32.7	297	12.5	2,381	335	54.8
4.住民自治の活性化	155	6.7	1,096	47.0	905	38.8	174	7.5	2,330	386	53.7
5.住民参加への取り組み	167	7.2	1,101	47.2	891	38.2	174	7.5	2,333	383	54.4
6.国際交流への取り組み	218	9.3	1,172	50.2	726	31.1	217	9.3	2,333	383	59.6
7.広域連携への取り組み	143	6.2	1,020	44.3	909	39.5	230	10.0	2,302	414	50.5

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問14 「満足度」一覧

	満足度	合併協実施時の満足度
<b>A 福祉・健康分野</b>		
1. 子育てを応援するためのサービス	64.5	72.2
2. 高齢者の自立支援や福祉対策	62.5	69.0
3. 障害者の自立支援や福祉対策	55.4	62.6
4. 健康づくり支援の充実	65.2	76.7
5. 地域医療等の充実	15.3	59.5
6. 社会保障制度の充実	31.7	—
<b>B 教育・文化・生涯学習分野</b>		
1. 児童・生徒の教育環境対策	55.8	62.9
2. 学校教育施設の整備	61.7	72.6
3. 文化、芸能等の振興、保存	69.2	76.6
4. 文化施設の整備充実	60.7	57.4
5. 歴史遺産、文化財の保護・活用	73.2	77.4
6. 生涯学習の推進	65.4	71.3
7. スポーツに親しむ環境づくり	62.6	67.7
8. 青少年の健全育成	57.5	—
<b>C 生活・環境分野</b>		
1. 暮らす場の整備	53.1	60.1
2. 快適な生活道路の整備	45.5	51.7
3. 憩い空間の充実	42.0	48.4
4. 通学や生活の足としての公共交通機関等の充実	32.1	39.4
5. 安全な水の供給	72.2	70.7
6. 衛生的な下水・雨水の処理	55.3	53.1
7. ごみ・し尿処理への取組み	58.5	62.6
8. 環境対策への取組み	57.6	58.5
<b>D 安全・安心対策分野</b>		
1. 交通安全対策の推進	49.1	56.7
2. 防犯対策への取組み	58.2	55.1
3. 大地震対策への取組み	47.3	49.1
4. 地域の防災組織の充実	62.7	65.8
5. 消防・救急体制の充実	57.4	66.2
<b>E 産業・経済・都市基盤分野</b>		
1. 第1次産業（農林水産業）の振興	53.7	60.9
2. 第2次産業（鉱業、建設業、製造業）の振興	46.7	54.3
3. 第3次産業（サービス業）の振興	35.4	48.4
4. にぎわいの創出と交流人口対策	44.1	56.8
5. 便利な市街地・中心街の整備	29.7	45.1
6. 円滑な道路網の整備	47.3	47.3
7. 市の宣伝・情報提供の充実	39.6	—
<b>F 総合的分野</b>		
1. 市の広報・広聴の充実	62.8	75.3
2. 窓口サービスの対応	66.3	74.8
3. 地域情報化への取組み	54.8	60.0
4. 住民自治の活性化	53.7	60.8
5. 住民参加への取組み	54.4	58.4
6. 国際交流への取組み	59.6	65.8
7. 広域連携への取組み	50.5	—

※ 満足度＝設問に係る有効回答数のうち、「満足」、「やや満足」と回答のあった割合

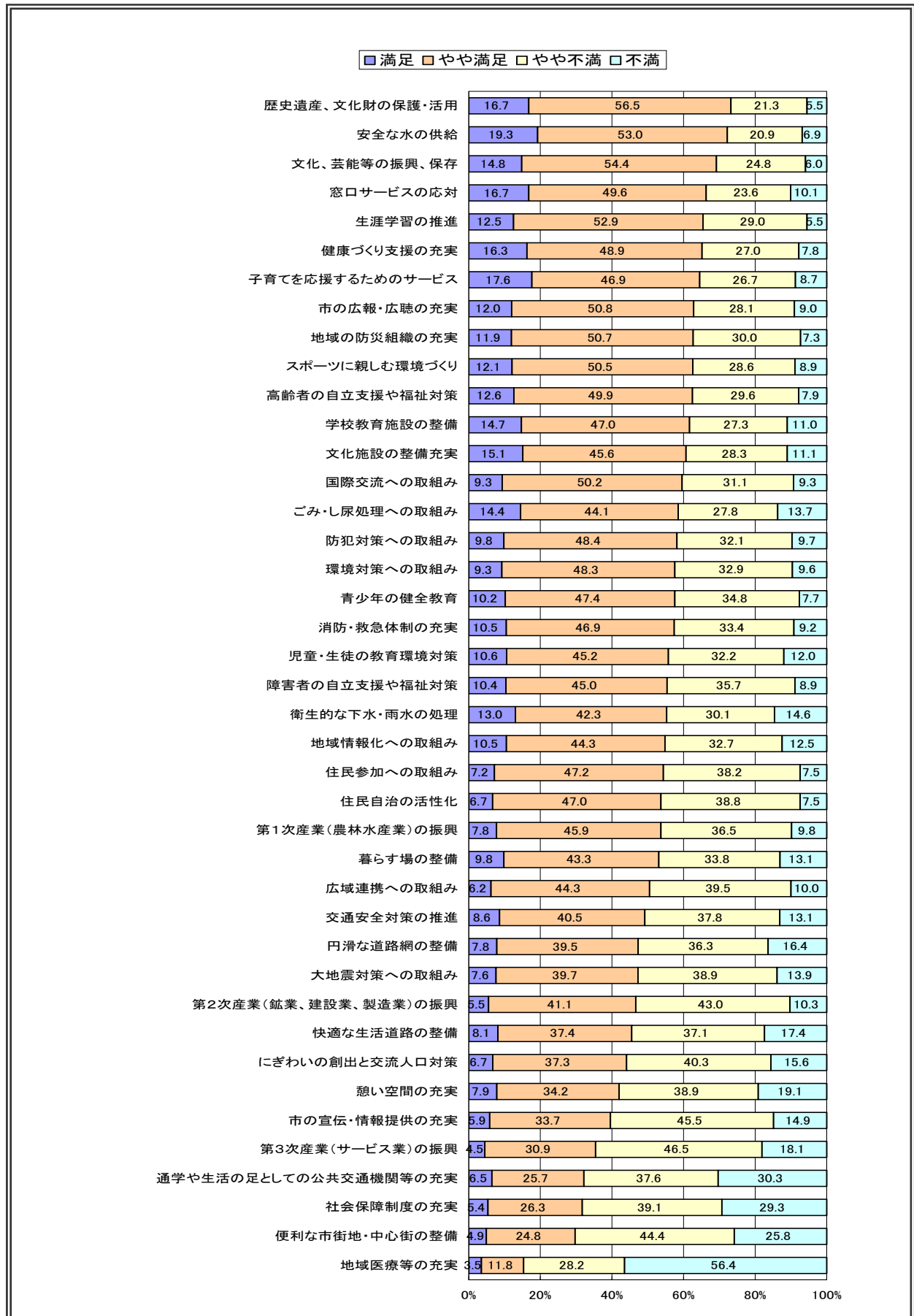
分野別では、「教育・文化・生涯学習分野」の満足度が高く、「産業・経済・都市基盤分野」が低い。

項目別では、「歴史遺産・文化財の保護・活用」の満足度が73.2%と最も高く、「地域医療等の充実」が15.3%と最も低い。

4年前と比較すると、全般的に満足度が低下している。

特に「地域医療等の充実」に関しては、満足度が4年前より大幅に下降しており、「便利な市街地・中心街の整備」などの「産業・経済・都市基盤分野」の項目も満足度の下降幅が大きい。

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果



これからのまちづくり

問15. 新城市が将来どのようなまちになったらよいと思われますか。3つまで○印をつけてください。

将来像については、「子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち」が最も多く、次いで「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」、「道路、上下水道などの生活環境や通勤通学に便利で住みやすいまち」が上位にあがっています。

地区別、年齢別でも、全体とほぼ同様の傾向にあります。

【総計】

区分	回答数	選択率
水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち	1,669	62.6
史跡、文化財や歴史、伝統などの文化にあふれたまち	351	13.2
地域資源や地域特性を活かした農林業の盛んなまち	267	10.0
地域の自然特性などを活かし、多くの人々が行き交う観光のまち	338	12.7
工業や商業の活力を誘発し、かつ新規産業の育成を図る雇用機会の充実したまち	575	21.6
農林工商がともにバランスのとれた活力ある産業のまち	484	18.1
子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち	1,739	65.2
スポーツが盛んな、健康増進を推進するまち	156	5.8
地域特性を活かした子育て、人づくりを推進するまち	357	13.4
地域活動やボランティア活動が盛んな、人とのふれあいのあるまち	197	7.4
道路、上下水道などの生活環境や通勤通学に便利で住みやすいまち	718	26.9
ごみや公害のない清潔・快適なまち	584	21.9
国際化に対応した、国際色豊かな人々が集い、生活するまち	52	1.9
情報通信基盤（光ファイバ）を活用した利便性の高いまち	189	7.1
その他	38	1.4
有効回答者数(=n)	2,667	—

【「その他」の主な意見】

- 安心できる病院のあるまち・・・4
- 平均的に住みよいまち・・・3
- 活気のあるまち・・・2
- 合併前のまち・・・2
- 遊べる場所が多いまち・・・2

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち	64.2%	60.0%	61.0%
史跡、文化財や歴史、伝統などの文化にあふれたまち	13.0%	15.2%	9.4%
地域資源や地域特性を活かした農林業の盛んなまち	7.9%	10.9%	19.9%
地域の自然特性などを活かし、多くの人々が行き交う観光のまち	12.3%	14.1%	10.8%
工業や商業の活力を誘発し、かつ新規産業の育成を図る雇用機会の充実したまち	22.2%	20.7%	19.9%
農林工商がともにバランスのとれた活力ある産業のまち	18.5%	16.2%	21.6%
子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち	67.9%	62.5%	58.2%
スポーツが盛んな、健康増進を推進するまち	6.7%	4.9%	3.1%
地域特性を活かした子育て、人づくりを推進するまち	13.1%	12.0%	19.2%
地域活動やボランティア活動が盛んな、人とのふれあいのあるまち	7.6%	6.6%	7.0%
道路、上下水道などの生活環境や通勤通学に便利で住みやすいまち	24.0%	32.8%	29.6%
ごみや公害のない清潔・快適なまち	22.8%	20.6%	20.2%
国際化に対応した、国際色豊かな人々が集い、生活するまち	2.3%	1.1%	1.7%
情報通信基盤（光ファイバ）を活用した利便性の高いまち	7.1%	7.4%	5.9%
その他	1.2%	1.2%	2.4%
有効回答者数(=n)	n=1,636	n=728	n=287



#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

【年齢別回答割合】

区分	18～29歳	30～49歳	50～69歳	70歳以上
水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち	61.3%	62.9%	61.9%	65.2%
史跡、文化財や歴史、伝統などの文化にあふれたまち	16.2%	13.4%	11.8%	13.6%
地域資源や地域特性を活かした農林業の盛んなまち	6.3%	6.6%	13.0%	15.6%
地域の自然特性などを活かし、多くの人々が行き交う観光のまち	12.9%	12.5%	13.1%	11.6%
工業や商業の活力を誘発し、かつ新規産業の育成を図る雇用機会の充実したまち	15.3%	19.4%	25.6%	21.9%
農林工商がともにバランスのとれた活力ある産業のまち	12.0%	14.5%	21.6%	25.2%
子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち	54.7%	68.8%	65.3%	64.6%
スポーツが盛んな、健康増進を推進するまち	10.5%	7.4%	3.2%	4.3%
地域特性を活かした子育て、人づくりを推進するまち	18.3%	17.0%	9.0%	10.9%
地域活動やボランティア活動が盛んな、人とのふれあいのあるまち	7.5%	6.1%	8.7%	7.3%
道路、上下水道などの生活環境や通勤通学に便利で住みやすいまち	23.4%	24.3%	31.4%	24.5%
ごみや公害のない清潔・快適なまち	29.1%	22.4%	19.6%	19.9%
国際化に対応した、国際色豊かな人々が集い、生活するまち	4.2%	2.6%	1.2%	0.0%
情報通信基盤（光ファイバ）を活用した利便性の高いまち	11.4%	7.4%	5.6%	6.0%
その他	3.0%	1.9%	0.8%	0.3%
有効回答者数(=n)	n=333	n=1,007	n=1,023	n=302

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問16. あなたは将来に対して、何に不安を感じますか。3つまで○印をつけてください。

将来の不安については、「医療・福祉サービスの低下」が最も多く、次いで「少子高齢化の進行」、「地域の過疎化」が上位にあがっています。

地区別にみると、新城地区では「医療・福祉サービスの低下」の回答割合が他地区より高く、鳳来地区及び作手地区では「地域の過疎化」の回答割合が高くなっています。

##### 【総計】

区分	回答数	選択率
地域の過疎化	1,079	40.3
子育て環境の悪化	308	11.5
医療・福祉サービスの低下	1,993	74.4
公共交通サービスの低下	362	13.5
住環境の悪化	165	6.2
自然環境の悪化	472	17.6
防災対策の遅れ	250	9.3
犯罪の増加	690	25.8
地域の無秩序な開発	234	8.7
就業機会の減少	359	13.4
家計の困窮	476	17.8
少子高齢化の進行	1,134	42.3
地域コミュニティの崩壊	138	5.2
その他	34	1.3
有効回答者数(=n)	2,679	—

##### 【「その他」の主な意見】

- 行財政の悪化・・・8
- 老後、年金問題・・・4
- 設問すべてが不安・・・2

##### 【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
地域の過疎化	31.0%	54.0%	59.3%
子育て環境の悪化	10.8%	12.7%	13.3%
医療・福祉サービスの低下	79.8%	67.1%	62.1%
公共交通サービスの低下	11.3%	16.9%	16.8%
住環境の悪化	6.6%	6.5%	3.2%
自然環境の悪化	17.9%	16.5%	18.9%
防災対策の遅れ	11.3%	6.5%	5.3%
犯罪の増加	29.7%	21.2%	14.4%
地域の無秩序な開発	9.2%	6.4%	12.3%
就業機会の減少	12.3%	15.0%	15.8%
家計の困窮	19.2%	15.8%	14.7%
少子高齢化の進行	40.5%	45.9%	43.9%
地域コミュニティの崩壊	5.4%	4.6%	5.6%
その他	1.3%	0.7%	2.5%
有効回答者数(=n)	n=1,644	n=735	n=285

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問17. あなたが、おすすめの新城市の魅力、または、今後の新城市をPRするにあたり効果的だと思われるものを3つまで○印をつけてください。

市の魅力や市をPRするにあたり効果的なものについては、「滝や清流、湿原や山などの豊かな自然環境や水、森林、温泉などの豊富な地域資源」が最も多く、次いで「さくらまつり、もみじまつり、つくで祭りなどの四季と自然を扱うイベント」、「長篠城址・設楽原などの史跡や、のぼりまつりなどの歴史的背景を活用した行事」が上位にあがっています。

地区別にみると、新城地区では「新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント」、鳳来地区では「長篠城址・設楽原などの史跡や、のぼりまつりなどの歴史的背景を活用した行事」、作手地区では「愛知県民の森、鬼久保ふれあい広場など自然環境豊かな施設での研修、合宿利用」の回答割合が他地区と比較して高くなっています。

### 【総計】

区分	回答数	選択率
滝や清流、湿原や山などの豊かな自然環境や水、森林、温泉などの豊富な地域資源	1,996	75.5
長篠城址・設楽原などの史跡や、のぼりまつりなどの歴史的背景を活用した行事	1,014	38.4
さくらまつり、もみじまつり、つくで祭りなどの四季と自然を扱うイベント	1,242	47.0
新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント	297	11.2
愛知県民の森、鬼久保ふれあい広場など自然環境豊かな施設での研修、合宿利用	523	19.8
豊橋市、岡崎市、豊田市、浜松市に近く、便利で、地価も低廉な静かな生活環境	961	36.3
第二東名高速道路や三遠南信自動車道路の開通による地域の魅力の向上	928	35.1
その他	64	2.4
有効回答者数(=n)	2,644	—

### 【「その他」の主な意見】

- PRするものがない、市に魅力がない・・・18
- 心のふれあい、人へのやさしさ・・・5
- 設問の趣旨が理解できない・・・3
- 特産物・・・2

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
滝や清流、湿原や山などの豊かな自然環境や水、森林、温泉などの豊富な地域資源	74.7%	77.9%	75.0%
長篠城址・設楽原などの史跡や、のぼりまつりなどの歴史的背景を活用した行事	38.3%	45.5%	21.4%
さくらまつり、もみじまつり、つくで祭りなどの四季と自然を扱うイベント	50.4%	38.7%	48.9%
新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント	12.7%	9.1%	7.9%
愛知県民の森、鬼久保ふれあい広場など自然環境豊かな施設での研修、合宿利用	17.1%	19.5%	35.7%
豊橋市、岡崎市、豊田市、浜松市に近く、便利で、地価も低廉な静かな生活環境	35.4%	35.0%	45.4%
第二東名高速道路や三遠南信自動車道路の開通による地域の魅力の向上	33.5%	40.8%	30.0%
その他	2.6%	1.4%	3.6%
有効回答者数(=n)	n=1,625	n=723	n=280

問18. 市の情報基盤(光ファイバ)を利用して実施してほしいサービスはありますか。1つだけ○印をつけてください。  
(光ファイバの利用により、映像、音声の提供だけでなく、電話のように相互の通信が可能になります。)

市の情報基盤を活用したサービスについては、「安全・安心対策サービス」、「福祉・健康サービス」を希望する人が多く、地区別、年齢別でも、全体とほぼ同様の傾向にあります。

区分	回答数	構成比
福祉・健康サービス (遠隔医療、子育て支援、福祉ボランティア情報など)	853	31.4%
教育・文化・生涯学習サービス (生涯学習支援、図書館情報、文化・史跡情報提供など)	216	8.0%
生活・環境サービス (環境情報提供、不法投棄監視など)	136	5.0%
安全・安心対策サービス (防災情報提供、安否確認、児童見守りシステムなど)	894	32.9%
産業・経済・都市基盤サービス (農林業・産業・観光情報提供、まちづくり支援など)	197	7.3%
行政情報提供サービス	173	6.4%
その他	62	2.3%
無回答等	185	6.8%
計	2,716	100.0%

【「その他」の主な意見】

- 実施してほしいサービスがない・・・16
- 光ファイバは必要ない・・・13

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問19. この地域の少子化対策に有効と思われるものを3つまで○印をつけてください。

有効な少子化対策については、「病院、診療所の充実」が最も多く、次いで「若者の定住のための就職支援」、「子育て世代に対する手当てや医療費無料対象年齢の引き上げなどの経済的支援」が上位にあがっています。

年齢別にみると、70歳以上では「若者の結婚に結びつく出会いの提供」を回答した人の割合が高くなっています。

【総計】

区分	回答数	選択率
若者の定住のための就職支援	1,554	58.6
若者の結婚に結びつく出会いの提供	532	20.1
若者や育児世帯向けの優良住宅・宅地の確保	600	22.6
三世代同居や市内近居を可能とする住宅建設への経済的支援	375	14.1
不妊治療や妊娠、出産に対する情報提供や経済的支援	315	11.9
子育て世代に対する手当てや医療費無料対象年齢の引き上げなどの経済的支援	1,119	42.2
病院、診療所の充実	1,889	71.3
保育サービスの充実や育児相談などの支援サービスの充実	486	18.3
地域ぐるみで行う子育て活動への支援	242	9.1
子育ての喜びを伝える意識の啓発	170	6.4
その他	63	2.4
有効回答者数(=n)	2,644	—

【「その他」の主な意見】

産婦人科・小児科が近くにあること・・・7

教育環境の充実・・・5

消防団活動などの負担軽減・・・4

有効な対策はない・・・4

減税・・・3

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

【年齢別回答割合】

区分	18～29歳	30～49歳	50～69歳	70歳以上
若者の定住のための就職支援	50.9%	52.1%	65.5%	65.6%
若者の結婚に結びつく出会いの提供	18.1%	12.7%	24.1%	33.3%
若者や育児世帯向けの優良住宅・宅地の確保	31.3%	25.1%	19.3%	16.0%
三世代同居や市内近居を可能とする住宅建設への経済的支援	10.8%	13.9%	14.5%	17.7%
不妊治療や妊娠、出産に対する情報提供や経済的支援	20.5%	14.6%	7.9%	6.5%
子育て世代に対する手当や医療費無料対象年齢の引き上げなどの経済的支援	45.2%	46.7%	39.6%	32.3%
病院、診療所の充実	65.1%	72.8%	71.0%	73.8%
保育サービスの充実や育児相談などの支援サービスの充実	22.0%	19.8%	18.6%	8.2%
地域ぐるみで行う子育て活動への支援	9.0%	8.2%	9.7%	10.5%
子育ての喜びを伝える意識の啓発	2.4%	4.9%	7.9%	11.2%
その他	2.7%	4.3%	0.8%	1.0%
有効回答者数(=n)	n=332	n=1,008	n=1,015	n=294

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問20. 市の活性化のため、第二東名高速道路や三遠南信自動車道路(インターチェンジやパーキングエリアを含む)の  
開通に向けてどのような対策が必要と思いますか。3つまで○印をつけてください。

第二東名高速道路等の開通対策については、「企業・事業所の誘致や用地整備」が最も多く、次いで「パーキ  
ングエリアにおける地元の情報の提供や特産品の販売の促進」、「観光資源の整備、観光資源のルート化、連絡  
道の整備」が上位にあがっています。

年齢別にみると、70歳以上及び50～69歳では「企業・事業所の誘致や用地整備」、18～29歳及び30～  
49歳では「大型ショッピングセンターなどの商業施設の誘致」を回答した人の割合が最も高くなっています。

### 【総計】

区分	回答数	選択率
企業・事業所の誘致や用地整備	1,257	48.8
住宅施設や住宅用地の整備	648	25.1
スポーツ、レジャー施設の整備	507	19.7
大型ショッピングセンターなどの商業施設の誘致	928	36.0
トラックターミナルなどの流通施設の誘致	258	10.0
学校など教育・文化施設の整備	440	17.1
高速バスの停留所整備	468	18.2
観光資源の整備、観光資源のルート化、連絡道の整備	1,036	40.2
パーキングエリアにおける地元の情報の提供や特産品の販売の促進	1,120	43.5
その他	118	4.6
有効回答者数(=n)	2,577	—

### 【「その他」の主な意見】

騒音・ゴミなどの環境対策・・・24

犯罪防止、防犯対策・・・12

道路は必要ない、市の活性化につながらない・・・9

### 【年齢別回答割合】

区分	18～29歳	30～49歳	50～69歳	70歳以上
企業・事業所の誘致や用地整備	35.2%	41.9%	56.4%	62.0%
住宅施設や住宅用地の整備	20.2%	23.1%	26.8%	32.5%
スポーツ、レジャー施設の整備	27.2%	23.9%	15.1%	12.4%
大型ショッピングセンターなどの商業施設の誘致	47.7%	42.0%	29.6%	23.0%
トラックターミナルなどの流通施設の誘致	8.9%	8.8%	11.8%	9.1%
学校など教育・文化施設の整備	15.0%	15.0%	18.4%	21.9%
高速バスの停留所整備	19.6%	15.5%	17.6%	27.7%
観光資源の整備、観光資源のルート化、連絡道の整備	30.9%	35.4%	49.3%	35.8%
パーキングエリアにおける地元の情報の提供や特産品の販売の促進	46.2%	41.1%	43.9%	47.1%
その他	6.4%	6.0%	3.3%	1.8%
有効回答者数(=n)	n=327	n=985	n=989	n=274

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問21. あなたが理想とする市役所の職員像を3つまで○印をつけてください。

理想とする職員像については、「常に住民に対して親切な対応と笑顔で接する職員」が最も多く、次いで「専門的な知識や資格をもち、住民からの問い合わせや相談に的確に答えられる職員」、「何事も「市民目線」で考え、住民と協働してまちづくり（事業）を進めようとする職員」が上位にあがっています。

地区別にみると、新城地区では「常にコスト意識をもって仕事に臨む職員」、鳳来地区では「地域に誇りと愛着を持つ職員」、作手地区では「何事も「市民目線」で考え、住民と協働してまちづくり（事業）を進めようとする職員」を回答した人の割合が他地区と比較して高くなっています。

##### 【総計】

区分	回答数	選択率
常に住民に対して親切な対応と笑顔で接する職員	1,597	59.9
専門的な知識や資格をもち、住民からの問い合わせや相談に的確に答えられる職員	1,453	54.5
専門以外の幅広い知識を持ち、豊かな発想力で物事を判断できる職員	797	29.9
常にコスト意識をもって仕事に臨む職員	603	22.6
行政の仕事を住民に分かりやすく説明することができる職員	716	26.9
何事も「市民目線」で考え、住民と協働してまちづくり（事業）を進めようとする職員	1,293	48.5
集落やコミュニティ、消防団、青年団、子ども会、PTA等の地域組織で活躍する職員	228	8.6
職務とは別に、地域の文化・スポーツクラブや市民サークル等の指導・育成に取り組む職員	137	5.1
地域に誇りと愛着を持つ職員	754	28.3
有効回答者数(=n)	2,666	—

##### 【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
常に住民に対して親切な対応と笑顔で接する職員	59.2%	61.0%	61.0%
専門的な知識や資格をもち、住民からの問い合わせや相談に的確に答えられる職員	55.2%	55.1%	49.3%
専門以外の幅広い知識を持ち、豊かな発想力で物事を判断できる職員	28.0%	33.7%	31.2%
常にコスト意識をもって仕事に臨む職員	25.4%	19.4%	15.2%
行政の仕事を住民に分かりやすく説明することができる職員	27.2%	26.1%	26.6%
何事も「市民目線」で考え、住民と協働してまちづくり（事業）を進めようとする職員	49.3%	44.9%	53.5%
集落やコミュニティ、消防団、青年団、子ども会、PTA等の地域組織で活躍する職員	7.6%	8.9%	12.8%
職務とは別に、地域の文化・スポーツクラブや市民サークル等の指導・育成に取り組む職員	5.5%	4.1%	4.6%
地域に誇りと愛着を持つ職員	26.8%	32.0%	27.7%
有効回答者数(=n)	n=1,642	n=728	n=282



## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問22. お住まいの地域だけでなく、市内全体の土地と建物の現状についてお答えください。  
 あてはまるものに1つだけ○印をつけてください。

設問	そう思う		少しそう思う		あまりそう思わない		思わない		有効回答	無回答等
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比		
管理されていない農地や空き地が増えてきた	1,110	44.4	768	30.7	507	20.3	116	4.6	2,501	215
商店を含めて、空き家や廃屋が目立ってきた	1,271	50.8	861	34.4	304	12.2	66	2.6	2,502	214
幹線道路沿道などで郊外型店舗の立地が見られるようになってきた	469	19.7	818	34.4	856	36.0	236	9.9	2,379	337
奇抜な色・形の建物など、周辺の風景に調和しない建物が建ってきた	136	5.7	399	16.7	1,379	57.6	479	20.0	2,393	323
建物の老朽化や密集化が進んでいる (災害発生時に倒壊、延焼拡大などが考えられる)	449	18.7	927	38.7	841	35.1	180	7.5	2,397	319
工場や倉庫などの立地が進んでいる (騒音や交通量などの住環境への影響が考えられる)	122	5.1	399	16.8	1,411	59.5	440	18.5	2,372	440

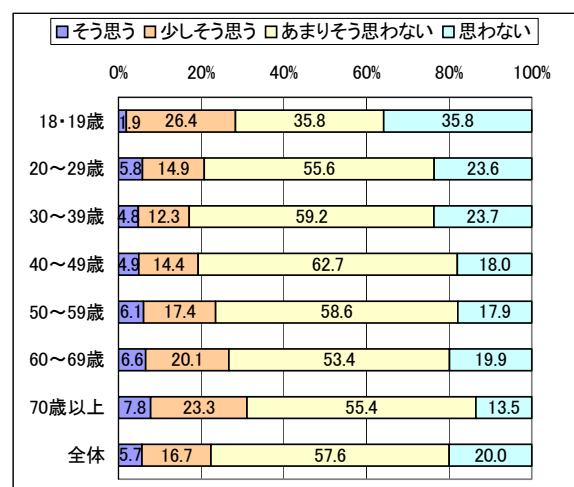
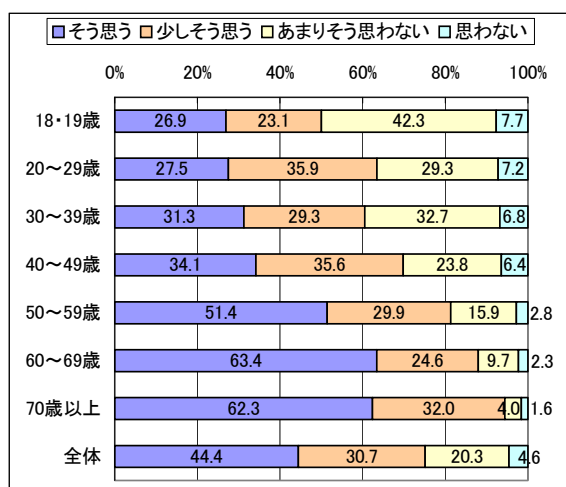
### 【年齢別回答割合】

Q. 管理されていない農地や空き地が増えてきた

	(%)					有効回答数
	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	思わない		
18・19歳	26.9	23.1	42.3	7.7	52	
20～29歳	27.5	35.9	29.3	7.2	276	
30～39歳	31.3	29.3	32.7	6.8	444	
40～49歳	34.1	35.6	23.8	6.4	533	
50～59歳	51.4	29.9	15.9	2.8	471	
60～69歳	63.4	24.6	9.7	2.3	476	
70歳以上	62.3	32.0	4.0	1.6	247	
全体	44.4	30.7	20.3	4.6	2,501	

Q. 奇抜な色・形の建物など、周辺の風景に調和しない建物が建ってきた

	(%)					有効回答数
	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	思わない		
18・19歳	1.9	26.4	35.8	35.8	53	
20～29歳	5.8	14.9	55.6	23.6	275	
30～39歳	4.8	12.3	59.2	23.7	439	
40～49歳	4.9	14.4	62.7	18.0	533	
50～59歳	6.1	17.4	58.6	17.9	476	
60～69歳	6.6	20.1	53.4	19.9	423	
70歳以上	7.8	23.3	55.4	13.5	193	
全体	5.7	16.7	57.6	20.0	2,393	



○住民アンケートの結果 【中学3年生】

## 総合計画住民アンケート 調査結果 (中学3年生分)

### 1. 調査目的

住民の方々の公共サービスの満足度やまちづくりについての考えを把握し、計画策定にあたっての参考とすることを目的とします。

なお、本調査は、18歳以上の一般住民アンケートと併せて実施しました。

### 2. 調査項目

別添「調査票」のとおり。

### 3. 調査方法

	中学生
(1) 調査地域	新城市内全域
(2) 調査対象	市内の中学校に通学する中学3年生
(3) 配布数	506人
(4) 抽出法	対象全員
(5) 調査方法	校内配布、回収
(6) 調査期間	平成19年6月8日(金)～6月22日(金) (注1)

(注1) 調査期間締め切り後も返送が続いたため、7月13日(金)到着分(締め切り後3週間)までを集計

### 4. 回収結果

	中学生
配布数	506
有効回収数	491
有効回収率	97.0%

### 5. 注意事項

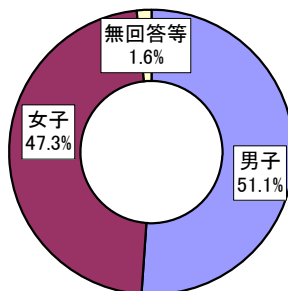
- (1) 比率については、小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100%にならないことがあります。
- (2) 回答率の母数は、原則としてその質問の回答者数であり、図表では「n」と表示しています。  
「n」の表示がない場合は、本調査の有効回収数(中学生:491)が「n」になります。

回答者の属性

問1. あなたの性別は。

回答者の性別は、男子が51.1%、女子が47.3%、無回答等が1.6%となっています。

区分	回答数	構成比
男子	251	51.1%
女子	232	47.3%
無回答等	8	1.6%
計	491	100.0%

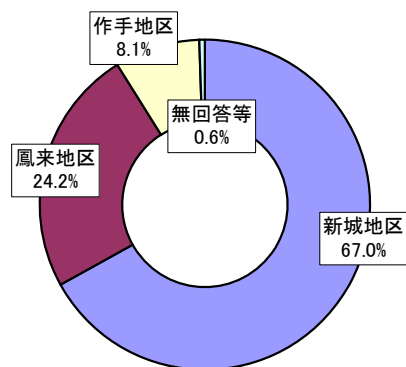
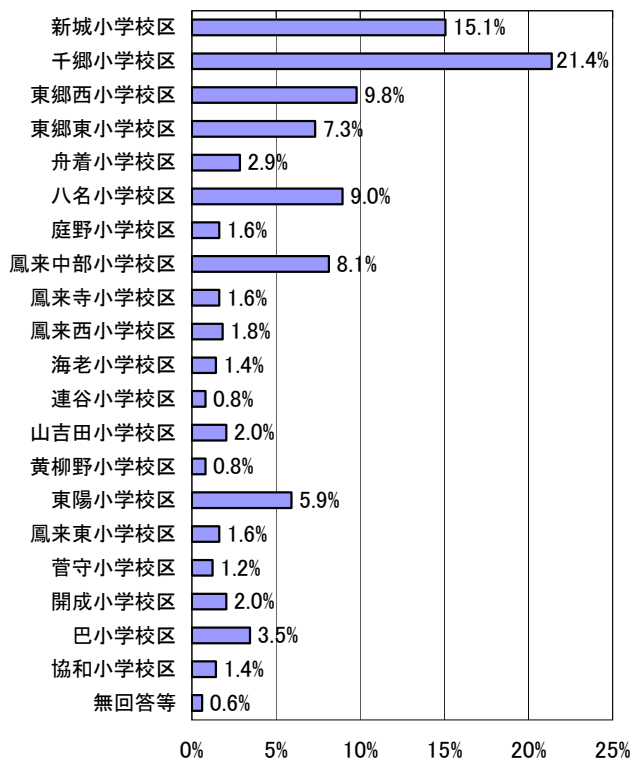


問2. あなたが住んでいる地域の小学校区は。

回答者の居住小学校区は、千郷が21.4%と最も多く、以下、新城(15.1%)、東郷西(9.8%)、八名(9.0%)、鳳来中部(8.1%)、東郷東(7.3%)、東陽(5.9%)、巴(3.4%)、舟着(2.9%)、山吉田(2.0%)、開成(2.0%)、鳳来西(1.8%)、庭野(1.6%)、鳳来寺(1.6%)、鳳来東(1.6%)、海老(1.4%)、協和(1.4%)、菅守(1.2%)、連谷(0.8%)、黄柳野(0.8%)、無回答等(0.6%)となっています。  
これを旧市町村の地区別にすると、新城地区が67.0%、鳳来地区24.2%、作手地区8.1%となります。

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

区分		回答数	構成比
新城地区	新城小学校区	74	15.1%
	千郷小学校区	105	21.4%
	東郷西小学校区	48	9.8%
	東郷東小学校区	36	7.3%
	舟着小学校区	14	2.9%
	八名小学校区	44	9.0%
	庭野小学校区	8	1.6%
鳳来地区	鳳来中部小学校区	40	8.1%
	鳳来寺小学校区	8	1.6%
	鳳来西小学校区	9	1.8%
	海老小学校区	7	1.4%
	連谷小学校区	4	0.8%
	山吉田小学校区	10	2.0%
	黄柳野小学校区	4	0.8%
	東陽小学校区	29	5.9%
	鳳来東小学校区	8	1.6%
作手地区	菅守小学校区	6	1.2%
	開成小学校区	10	2.0%
	巴小学校区	17	3.5%
	協和小学校区	7	1.4%
無回答等		3	0.6%
計		491	100.0%



## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

### 定住意向

問3. あなたは、今後も新城市内に住みたいですか。

あてはまる考えにあう理由に1つだけ○印をつけてください。

定住意向については、「新城市に住みたい」と回答した人が4割、「他の所に住みたい」と回答した人が3割、「その他」が2割となっています。

理由別にみると、「新城市に住みたい」理由としては「豊かな自然に恵まれているから」が最も多く、「他の所に住みたい」理由としては「この地域に魅力的な働く場がないから」となっています。

地区別にみると、以下のような特性がみられます。

新城地区：「新城市に住みたい」と回答した割合が3地区で最も高くなっています。その理由としては、「友人や知人、親せきなどがいて安心して住めるから」、「豊かな自然に恵まれているから」と回答した人の数が高くなっています。

鳳来地区：「他の所に住みたい」と回答した割合が3地区で最も高くなっています。その理由としては、「この地域に魅力的な働く場がないから」と回答した人の数が高くなっています。

作手地区：全体とほぼ同様の傾向となっていますが、「他の所に住みたい」理由として「みんなで楽しんだり、遊ぶ場所がないから」と回答した人の割合が、他地区と比較して高くなっています。

#### 【総計】

区分	回答数	構成比	項目別構成比
<b>新城市に住みたい</b>			
家族と一緒に住みたいから	39	7.9%	18.5%
この地域の通勤できる範囲で働くつもりだから	9	1.8%	4.3%
友人や知人、親せきなどがいて安心して住めるから	69	14.1%	32.7%
豊かな自然に恵まれているから	76	15.5%	36.0%
地域社会の活動やつながりが充実しているから	6	1.2%	2.8%
その他	12	2.4%	5.7%
小計	211	43.0%	100.0%
<b>他の所に住みたい</b>			
この地域に魅力的な働く場がないから	58	11.8%	34.9%
この地域に魅力的な高校や大学がないから	43	8.8%	25.9%
みんなで楽しんだり、遊ぶ場所などがないから	51	10.4%	30.7%
その他	14	2.9%	8.4%
小計	166	33.8%	100.0%
<b>その他</b>			
新城市外に一時的に移転すると思うが、将来は市内で落ち着きたい	37	7.5%	32.7%
わからない	76	15.5%	67.3%
小計	113	23.0%	100.0%
無回答等	1	0.2%	—
計	491	100.0%	—

#### 【「新城市に住みたい・その他」の主な意見】

新城が好きだから・・・3

故郷だから・・・2

家を継ぐから・・・2

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

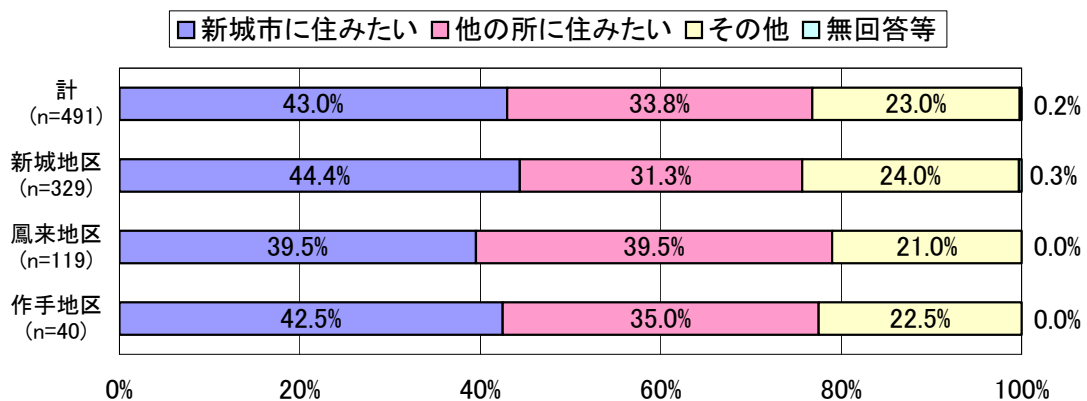
【「他の所に住みたい・その他」の主な意見】

いろいろな所に住んでみたい・・・4

都会に住みたい・・・2

【地区別回答数】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
<b>新都市に住みたい</b>			
家族と一緒に住みたいから	26	9	3
この地域の通勤できる範囲で働くつもりだから	4	5	0
友人や知人、親せきなどがいて安心して住めるから	51	11	7
豊かな自然に恵まれているから	51	18	7
地域社会の活動やつながりが充実しているから	5	1	0
その他	9	3	0
小計	146	47	17
<b>他の所に住みたい</b>			
この地域に魅力的な働く場がないから	36	18	3
この地域に魅力的な高校や大学がないから	24	15	4
みんなで楽しんだり、遊ぶ場所などがないから	30	13	7
その他	13	1	0
小計	103	47	14
<b>その他</b>			
新都市外に一時的に移転すると思うが、将来は市内で落ち着きたい	27	9	1
わからない	52	16	8
小計	79	25	9
無回答等	1	0	0
計	329	119	40



## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問4. 新都市に多くの人が住むようにするためには、どのような対策が必要と思われますか。

3つまで○印をつけてください。

定住促進対策については、「買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致」を選択した人が7割を超え、次いで「病院や診療施設などの充実」、「通勤圏・生活圏の拡大のための交通基盤整備」となっています。地域別にみると、以下のような特性がみられます。

新城地区：「病院や診療施設などの充実」を選択した人の割合が高くなっています。（地区内第2位）

鳳来地区：「通勤圏・生活圏の拡大のための交通基盤整備」と回答した人の割合が高くなっています。（地区内第2位）

作手地区：「近所付き合いや地域内コミュニティの維持・充実」と回答した人の割合が高くなっています。（地区内第3位）

【総計】

区分	回答数	選択率
女性が働きやすい環境づくりや子育て支援制度の充実	68	13.9%
子供の教育環境の充実	94	19.3%
近所付き合いや地域内コミュニティの維持・充実	56	11.5%
若い人やファミリー世帯向けの良好な住宅・宅地の供給	101	20.7%
通勤圏・生活圏の拡大のための交通基盤整備	178	36.5%
地場産業や新たな地域内産業の開発による働く場の整備	36	7.4%
企業誘致などによる働く場の整備	75	15.4%
買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致	353	72.3%
情報通信基盤の整備とソフト面での充実	77	15.8%
病院や診療施設などの充実	261	53.5%
その他	12	2.5%
有効回答者数 (=n)	488	—

【「その他」の主な意見】

自然、環境の維持・・・4

自然を生かした施設の充実・・・2

【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
女性が働きやすい環境づくりや子育て支援制度の充実	15.6%	10.9%	7.5%
子供の教育環境の充実	18.1%	21.0%	25.0%
近所付き合いや地域内コミュニティの維持・充実	9.2%	10.1%	35.0%
若い人やファミリー世帯向けの良好な住宅・宅地の供給	20.2%	20.2%	27.5%
通勤圏・生活圏の拡大のための交通基盤整備	31.6%	48.7%	37.5%
地場産業や新たな地域内産業の開発による働く場の整備	7.4%	6.7%	10.0%
企業誘致などによる働く場の整備	13.5%	21.8%	12.5%
買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致	73.3%	70.6%	67.5%
情報通信基盤の整備とソフト面での充実	13.5%	25.2%	5.0%
病院や診療施設などの充実	62.6%	38.7%	27.5%
その他	2.8%	1.7%	2.5%
有効回答者数 (=n)	n=326	n=119	n=40

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

### 住民自治活動や住民と行政の係わり合い

問5. あなたは、地域の行事(お祭りなど)に参加していますか。1つだけ○印をつけてください。

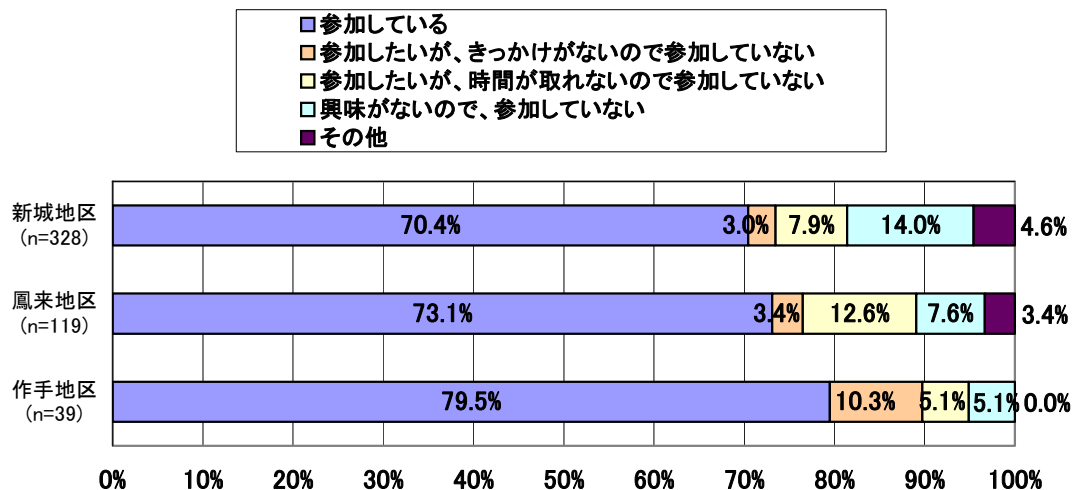
地域の行事に「参加している」という回答の人が7割を超えています。  
一方、「参加していない」という回答の人の理由としては、「興味がない」、「参加したいが時間が取れない」が多くなっています。  
地区別にみると、作手地区では「参加している」という回答の人の割合が高く、8割近くになっています。

区分	回答数	構成比
参加している	349	71.1%
参加したいが、きっかけがないので参加していない	20	4.1%
参加したいが、時間が取れないので参加していない	44	9.0%
興味がないので、参加していない	57	11.6%
その他	19	3.9%
無回答等	2	0.4%
計	491	100.0%

【「その他」の主な意見】

ときどき参加している・・・12

めんどうなので参加していない・・・3





## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問6. あなたは地域の行事の中で、参加・協力していきたいものがありますか。

(現在行なっていて、さらに継続して参加・協力したいものも含まれます。)

あてはまるものすべてに○印をつけてください。

地域の住民自治活動への参加・協力については、「地域で行なうスポーツや趣味の団体の活動」が最も多く、次いで「地域の清掃・美化、環境保護の活動」、「地区で行うコミュニティ活動」となっています。

地区別にみると、新城地区では「地区で行なうコミュニティ活動」、鳳来地区では「地域で行うスポーツや趣味の団体の活動」や「地域の歴史・文化などの保護や伝承活動」、作手地区では「子供会やジュニアリーダーなどの活動」への参加・協力の割合が、他地区と比較して高くなっています。

### 【総計】

区分	回答数	選択率
地区で行うコミュニティ活動	131	29.5%
子供会やジュニアリーダーなどの活動	76	17.1%
地域で行うスポーツや趣味の団体の活動	200	45.0%
地域の清掃・美化、環境保護の活動	140	31.5%
障害者の支援や老人介護などのボランティア活動	59	13.3%
地域の歴史・文化などの保護や伝承活動	65	14.6%
地域のまちづくりを考える活動や役所への要望・参加	23	5.2%
その他	13	2.9%
回答者数(=n)	444	—

### 【「その他」の主な意見】

参加・協力したいものはない・・・5

お祭り・・・3

### 【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
地区で行うコミュニティ活動	30.3%	29.1%	26.5%
子供会やジュニアリーダーなどの活動	13.1%	23.6%	29.4%
地域で行うスポーツや趣味の団体の活動	44.4%	50.9%	32.4%
地域の清掃・美化、環境保護の活動	35.4%	20.0%	35.3%
障害者の支援や老人介護などのボランティア活動	12.5%	16.4%	11.8%
地域の歴史・文化などの保護や伝承活動	12.8%	21.8%	8.8%
地域のまちづくりを考える活動や役所への要望・参加	4.7%	5.5%	8.8%
その他	3.4%	2.7%	0.0%
回答者数(=n)	n=297	n=110	n=34

公共サービスに対する重要度

7. 新城市内の色々な公共サービスについて、あなたはどの程度重要だと思いますか。

※ 重要率＝有効回答のうち、「重要」もしくは「やや重要」を選択した回答の割合

設問	重要		やや重要		あまり重要でない		重要でない		無効回答	重要度	
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比			
1.子育てを応援するためのサービス	231	47.3	216	44.3	33	6.8	8	1.6	488	3	91.6
2.高齢者の自立支援や福祉対策	307	62.7	165	33.7	13	2.7	5	1.0	490	1	96.3
3.障害者の自立支援や福祉対策	271	55.3	189	38.6	22	4.5	8	1.6	490	1	93.9
4.健康づくりのための支援の充実	177	36.2	258	52.8	45	9.2	9	1.8	489	2	89.0
5.地域医療の充実	386	78.9	88	18.0	9	1.8	6	1.2	489	2	96.9

B 教育・文化・生涯学習分野

設問	重要		やや重要		あまり重要でない		重要でない		無効回答	重要度	
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比			
1.児童・生徒の教育環境対策	269	54.9	175	35.7	37	7.6	9	1.8	490	1	90.6
2.学校教育施設の整備	290	59.2	154	31.4	34	6.9	12	2.4	490	1	90.6
3.文化、芸能等の振興、保存	151	30.9	202	41.3	119	24.3	17	3.5	489	2	72.2
4.文化施設の整備充実	162	33.1	181	37.0	117	23.9	29	5.9	489	2	70.1
5.歴史遺産、文化財の保護・活用	165	33.8	205	42.0	90	18.4	28	5.7	488	3	75.8
6.生涯学習の推進	88	18.0	226	46.2	143	29.2	32	6.5	489	2	64.2
7.スポーツに親しむ環境づくり	205	41.9	194	39.7	69	14.1	21	4.3	489	2	81.6
8.青少年の健全育成	94	19.2	240	49.1	128	26.2	27	5.5	489	2	68.3

C 生活・環境分野											
設問	重要		やや重要		あまり重要でない		重要でない		有効回答	無効回答	重要度
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比			
1.暮らす場の整備	217	44.3	195	39.8	68	13.9	10	2.0	490	1	84.1
2.快適な生活道路の整備	214	44.0	194	39.9	63	13.0	15	3.1	486	5	84.0
3.安らぎのある空間の整備	242	49.5	166	33.9	68	13.9	13	2.7	489	2	83.4
4.通学や生活の足としての公共交通機関等の充実	254	51.8	159	32.4	64	13.1	13	2.7	490	1	84.3
5.安全な水の供給	293	59.8	164	33.5	27	5.5	6	1.2	491	1	93.3
6.衛生的な下水・雨水の処理	238	48.8	203	41.6	37	7.6	10	2.0	488	3	90.4
7.ごみ・し尿処理への取組み	269	55.3	174	35.8	40	8.2	3	0.6	486	5	91.2
8.環境対策への取組み	319	65.2	137	28.0	28	5.7	5	1.0	489	2	93.3

D 安全・安心対策分野											
設問	重要		やや重要		あまり重要でない		重要でない		有効回答	無効回答	重要度
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比			
1.交通安全対策の推進	276	56.3	183	37.3	24	4.9	7	1.4	490	1	93.7
2.防犯対策への取組み	298	60.8	158	32.2	30	6.1	4	0.8	490	1	93.1
3.大地震対策への取組み	371	75.9	100	20.4	16	3.3	2	0.4	489	2	96.3
4.地域の防災組織の充実	261	53.3	193	39.4	30	6.1	6	1.2	490	1	92.7
5.消防・救急体制の充実	289	59.1	170	34.8	26	5.3	4	0.8	489	2	93.9

E 産業・経済・都市基盤分野											
設問	重要		やや重要		あまり重要でない		重要でない		有効回答	無効回答	重要度
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比			
1.第1次産業（農林水産業）の振興	154	31.6	244	50.1	78	16.0	11	2.3	487	4	81.7
2.第2次産業（建設業、製造業、鉱業）の振興	109	22.4	252	51.7	114	23.4	12	2.5	487	4	74.1
3.第3次産業（サービス業）の振興	152	31.3	242	49.8	83	17.1	9	1.9	486	5	81.1
4.にぎわいの創出と交流人口の増加	239	49.2	185	38.1	54	11.1	8	1.6	486	5	87.2
5.便利な市街地・中心街の整備	235	48.3	190	39.0	52	10.7	10	2.1	487	4	87.3
6.道路網の整備	193	39.7	198	40.7	75	15.4	20	4.1	486	5	80.5
7.市の宣伝・情報提供の充実	154	31.8	229	47.2	83	17.1	19	3.9	485	6	79.0

F 総合的分野											
設問	重要		やや重要		あまり重要でない		重要でない		有効回答	無効回答	重要度
	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比	有効回答数	有効構成比			
1.市の広報・広聴の充実	114	23.4	212	43.5	126	25.9	35	7.2	487	4	66.9
2.地域情報化への取り組み	216	44.4	193	39.6	65	13.3	13	2.7	488	4	84.0
3.住民自治の活性化	151	31.1	248	51.0	70	14.4	17	3.5	486	5	82.1
4.住民参加への取り組み	126	25.9	238	48.9	104	21.4	19	3.9	487	4	74.7
5.国際交流への取り組み	182	37.4	201	41.3	81	16.6	23	4.7	487	4	78.6

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問7 「重要度」一覧

	重要度	合併協実施時の重要度
<b>A 福祉・健康分野</b>		
1. 子育てを応援するためのサービス	91.6	90.7
2. 高齢者の自立支援や福祉対策	96.3	} 96.1
3. 障害者の自立支援や福祉対策	93.9	
4. 健康づくりのための支援の充実	89.0	89.6
5. 地域医療の充実	96.9	96.9
<b>B 教育・文化・生涯学習分野</b>		
1. 児童・生徒の教育環境対策	90.6	93.8
2. 学校教育施設の整備	90.6	93.4
3. 文化、芸能等の振興、保存	72.2	76.0
4. 文化施設の整備充実	70.1	80.2
5. 歴史遺産、文化財の保護・活用	75.8	—
6. 生涯学習の推進	64.2	71.3
7. スポーツに親しむ環境づくり	81.6	83.5
8. 青少年の健全育成	68.3	—
<b>C 生活・環境分野</b>		
1. 暮らす場の整備	84.1	75.5
2. 快適な生活道路の整備	84.0	—
3. 安らぎのある空間の整備	83.4	—
4. 通学や生活の足としての公共交通機関等の充実	84.3	87.4
5. 安全な水の供給	93.3	} 87.1
6. 衛生的な下水・雨水の処理	90.4	
7. ごみ・し尿処理への取組み	91.2	93.1
8. 環境対策への取組み	93.3	94.2
<b>D 安全・安心対策分野</b>		
1. 交通安全対策の推進	93.7	91.7
2. 防犯対策への取組み	93.1	94.2
3. 大地震対策への取組み	96.3	98.6
4. 地域の防災組織の充実	92.7	—
5. 消防・救急体制の充実	93.9	96.5
<b>E 産業・経済・都市基盤分野</b>		
1. 第1次産業（農林水産業）の振興	81.7	81.2
2. 第2次産業（建設業、製造業、鉱業）の振興	74.1	75.8
3. 第3次産業（サービス業）の振興	81.1	83.9
4. にぎわいの創出と交流人口の増加	87.2	82.9
5. 便利な市街地・中心街の整備	87.3	89.1
6. 道路網の整備	80.5	74.0
7. 市の宣伝・情報提供の充実	79.0	—
<b>F 総合的分野</b>		
1. 市の広報・広聴の充実	66.9	72.3
2. 地域情報化への取組み	84.0	72.0
3. 住民自治の活性化	82.1	—
4. 住民参加への取組み	74.7	82.6
5. 国際交流への取組み	78.6	81.4

※ 重要度＝設問に係る有効回答数のうち、「満足」、「やや満足」と回答のあった割合

分野別では「安全・安心対策分野」、「福祉・健康分野」の重要度が高い。

項目別では「地域医療の充実」、「高齢者の自立支援や福祉対策」、「大地震対策への取組み」の重要度が高く、逆に最も低いのは「生涯学習の推進」となっている。

なお、4年前と比較すると、「地域情報化への取組み」の重要度が大幅に上昇している。

これからのまちづくり

問8. 新城市が将来どのようなまちになったらよいと思われますか。3つまで○印をつけてください。

将来像については、「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」が最も多く、次いで、「子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち」、「ごみや公害のない清潔・快適なまち」が上位にあがっています。

地区別にも、全体とほぼ同様の傾向にありますが、鳳来地区及び作手地区では「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」に次いで、「ごみや公害のない清潔・快適なまち」を選択した人が多くなっています。

【総計】

区分	回答数	選択率
水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち	327	67.3
史跡、文化財や歴史、伝統などの文化にあふれたまち	103	21.2
地域資源や地域特性を活かした農林業の盛んなまち	21	4.3
地域の自然特性などを活かし、多くの人々が行き交う観光のまち	84	17.3
工業や商業の活力を誘い、新規産業を育成する働く場の充実したまち	52	10.7
農林業や商工業がともにバランスのとれた活力ある産業のまち	34	7.0
子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち	186	38.3
スポーツが盛んな、健康増進を推進するまち	135	27.8
地域の特徴を活かした子育て、人づくりを推進するまち	20	4.1
地域活動やボランティア活動が盛んな、人とのふれあいのあるまち	44	9.1
道路、上下水道などの生活環境や通勤通学に便利で住みやすいまち	64	13.2
ごみや公害のない清潔・快適なまち	179	36.8
国際化に対応した、国際色豊かな人々が集い、生活するまち	38	7.8
情報通信基盤（光ファイバ）を活用した利便性の高いまち	84	17.3
その他	9	1.9
有効回答者数 (=n)	486	—

【「その他」の主な意見】

楽しく遊べるまち・・・3

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち	65.8%	65.3%	82.5%
史跡、文化財や歴史、伝統などの文化にあふれたまち	18.8%	28.0%	22.5%
地域資源や地域特性を活かした農林業の盛んなまち	4.0%	2.5%	12.5%
地域の自然特性などを活かし、多くの人々が行き交う観光のまち	14.8%	26.3%	7.5%
工業や商業の活力を誘い、新規産業を育成する働く場の充実したまち	10.8%	9.3%	15.0%
農林業や商工業がともにバランスのとれた活力ある産業のまち	6.2%	9.3%	7.5%
子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち	42.5%	28.0%	37.5%
スポーツが盛んな、健康増進を推進するまち	28.9%	27.1%	20.0%
地域の特徴を活かした子育て、人づくりを推進するまち	4.0%	5.9%	0.0%
地域活動やボランティア活動が盛んな、人とのふれあいのあるまち	10.2%	6.8%	7.5%
道路、上下水道などの生活環境や通勤通学に便利で住みやすいまち	14.8%	11.9%	5.0%
ごみや公害のない清潔・快適なまち	36.9%	33.1%	47.5%
国際化に対応した、国際色豊かな人々が集い、生活するまち	8.3%	6.8%	7.5%
情報通信基盤（光ファイバ）を活用した利便性の高いまち	14.8%	26.3%	10.0%
その他	2.2%	1.7%	0.0%
有効回答者数(=n)	n=325	n=118	n=40

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問9. あなたは住んでいる地域の将来に対して、不安に感じているものがありますか。3つまで○印をつけてください。

将来の不安については、「医療・福祉サービスの低下」が最も多く、次いで「地域に人が少なくなる」、「少子化と高齢化の進行」が上位にあがっています。

地区別にみると、鳳来地区及び作手地区では「地域に人が少なくなる」が最も多く、次いで「バス・電車の減少」が多くなっています。また、新城地区では「医療・福祉サービスの低下」の回答割合が他地区より高くなっています。

##### 【総計】

区分	回答数	選択率
地域に人が少なくなる	197	40.6
子育て環境の悪化	33	6.8
医療・福祉サービスの低下	240	49.5
バス・電車の減少	120	24.7
生活環境の悪化	43	8.9
自然環境の悪化	133	27.4
防災対策の遅れ	82	16.9
犯罪の増加	130	26.8
地域の不正な開発	26	5.4
就業場所の減少	125	25.8
少子化と高齢化の進行	163	33.6
地域コミュニティの崩壊	11	2.3
その他	15	3.1
有効回答者数 (=n)	485	—

##### 【「その他」の主な意見】

店の少なさ・・・3

市の財政・・・2

##### 【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
地域に人が少なくなる	32.2%	62.2%	42.5%
子育て環境の悪化	7.7%	4.2%	7.5%
医療・福祉サービスの低下	59.4%	29.4%	30.0%
バス・電車の減少	16.7%	43.7%	35.0%
生活環境の悪化	10.2%	7.6%	2.5%
自然環境の悪化	27.2%	25.2%	32.5%
防災対策の遅れ	18.6%	13.4%	15.0%
犯罪の増加	30.0%	17.6%	27.5%
地域の不正な開発	4.6%	7.6%	5.0%
就業場所の減少	24.8%	29.4%	25.0%
少子化と高齢化の進行	30.0%	42.9%	35.0%
地域コミュニティの崩壊	2.2%	1.7%	5.0%
その他	3.7%	2.5%	0.0%
有効回答者数 (=n)	n=323	n=119	n=40



#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問10. あなたが、おすすめの新城市の魅力、または、今後の新城市をPRするために効果的と思われるものを3つまで○印をつけてください。

市の魅力や市をPRするにあたり効果的なものについては、「滝や清流、湿原や山などの豊かな自然環境や水、森林、温泉などの豊富な地域の資源」が最も多く、次いで「さくらまつり、もみじまつり、つくで祭りなどの四季と自然を扱うイベント」、「長篠城址・設楽原などの史跡や、のぼりまつりなどの歴史的背景を活用した行事」が上位にあがっています。

地区別にみると、新城地区では「新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント」、鳳来地区では「長篠城址・設楽原などの史跡や、のぼりまつりなどの歴史的背景を活用した行事」、作手地区では「愛知県民の森、鬼久保ふれあい広場など自然環境豊かな施設での研修、合宿利用」の回答割合が他地区と比較して高くなっています。

##### 【総計】

区分	回答数	選択率
滝や清流、湿原や山などの豊かな自然環境や水、森林、温泉などの豊富な地域の資源	303	63.1
長篠城址・設楽原などの史跡や、のぼりまつりなどの歴史的背景を活用した行事	260	54.2
さくらまつり、もみじまつり、つくで祭りなどの四季と自然を扱うイベント	261	54.4
新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント	62	12.9
愛知県民の森、鬼久保ふれあい広場など自然環境豊かな施設での研修や合宿などの利用	112	23.3
豊橋市、岡崎市、豊田市、浜松市に近く、便利で、地価も安い静かな生活環境	156	32.5
第二東名高速道路や三遠南信自動車道路の開通による地域の魅力の向上	64	13.3
その他	8	1.7
有効回答者数(=n)	480	—

##### 【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
滝や清流、湿原や山などの豊かな自然環境や水、森林、温泉などの豊富な地域の資源	59.2%	66.1%	85.0%
長篠城址・設楽原などの史跡や、のぼりまつりなどの歴史的背景を活用した行事	49.2%	71.2%	45.0%
さくらまつり、もみじまつり、つくで祭りなどの四季と自然を扱うイベント	55.5%	51.7%	50.0%
新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント	15.4%	6.8%	12.5%
愛知県民の森、鬼久保ふれあい広場など自然環境豊かな施設での研修や合宿などの利用	22.6%	22.0%	35.0%
豊橋市、岡崎市、豊田市、浜松市に近く、便利で、地価も安い静かな生活環境	33.5%	32.2%	22.5%
第二東名高速道路や三遠南信自動車道路の開通による地域の魅力の向上	15.0%	11.9%	5.0%
その他	2.2%	0.8%	0.0%
有効回答者数(=n)	n=319	n=118	n=40

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問11. 新城市では今、市内に光ファイバによる情報網の整備をしています。あなたは、この情報基盤(光ファイバ)を利用して実施してほしいサービスはありますか。1つだけ○印をつけてください。(光ファイバの利用により、インターネットなどを利用した話し合いや映像の交換が可能になります。)

市の情報基盤を活用したサービスについては、「安全・安心対策サービス」、「福祉・健康サービス」を希望する人が多くなっています。

地区別にみると、新城地区では「福祉・健康サービス」、作手地区では「安全・安心対策サービス」の回答割合が他地区と比較して高くなっています。

##### 【総計】

区分	回答数	構成比
福祉・健康サービス (遠隔医療、子育て支援、福祉ボランティア情報など)	111	22.6%
教育・文化・生涯学習サービス (生涯学習支援、図書館情報、文化・史跡情報提供など)	76	15.5%
生活・環境サービス (環境情報の提供、不法投棄の監視など)	61	12.4%
安全・安心対策サービス (防災情報の提供、災害時の確認、児童を見守るシステムなど)	162	33.0%
産業・経済・都市基盤サービス (農林業・産業・観光情報の提供、まちづくりの支援など)	47	9.6%
市役所の情報を提供するサービス	8	1.6%
その他	11	2.2%
無回答等	15	3.1%
計	491	100.0%

##### 【「その他」の主な意見】

実施してほしいサービスはない・・・3

光ファイバは不要・・・2

##### 【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
福祉・健康サービス (遠隔医療、子育て支援、福祉ボランティア情報など)	27.8%	14.5%	15.0%
教育・文化・生涯学習サービス (生涯学習支援、図書館情報、文化・史跡情報提供など)	16.1%	17.1%	12.5%
生活・環境サービス (環境情報の提供、不法投棄の監視など)	11.4%	16.2%	10.0%
安全・安心対策サービス (防災情報の提供、災害時の確認、児童を見守るシステムなど)	32.0%	35.0%	47.5%
産業・経済・都市基盤サービス (農林業・産業・観光情報の提供、まちづくりの支援など)	8.9%	11.1%	15.0%
市役所の情報を提供するサービス	1.3%	3.4%	0.0%
その他	2.8%	1.7%	0.0%
計	n=316	n=117	n=40

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問12. 今、整備が進んでいます第二東名高速道路や三遠南信自動車道路(インターチェンジやパーキングエリアを含む)の開通にあたり、市の活性化のためにはどのような対策が必要だと思いますか。  
3つまで○印をつけてください。

第二東名高速道路等の開通対策については、「大型ショッピングセンターなどの商業施設の誘致」が最も多く、次いで「スポーツ、レジャー施設の整備」、「パーキングエリアにおける地元の情報の提供や特産品の販売」が上位にあがっています。  
なお、地区別にみても、同様の傾向となっています。

##### 【総計】

区分	回答数	選択率
工場や営業所などの働く場を増やしたり、土地を用意	98	20.4
住宅を建てたり住宅用地を整備	89	18.5
スポーツ、レジャー施設の整備	201	41.8
大型ショッピングセンターなどの商業施設の誘致	303	63.0
トラックターミナルなどの流通施設の誘致	32	6.7
学校など教育・文化施設の整備	116	24.1
高速バスの停留所整備	65	13.5
観光資源の整備、観光資源紹介、連絡道の整備	98	20.4
パーキングエリアにおける地元の情報の提供や特産品の販売	155	32.2
その他	11	2.3
有効回答者数(=n)	481	—

##### 【「その他」の主な意見】

- 自然、環境の整備・・・3
- 高速道路は不要・・・2

##### 【地区別回答割合】

区分	新城地区	鳳来地区	作手地区
工場や営業所などの働く場を増やしたり、土地を用意	21.8%	16.2%	20.0%
住宅を建てたり住宅用地を整備	18.4%	17.9%	22.5%
スポーツ、レジャー施設の整備	42.7%	40.2%	35.0%
大型ショッピングセンターなどの商業施設の誘致	62.9%	68.4%	45.0%
トラックターミナルなどの流通施設の誘致	6.2%	5.1%	15.0%
学校など教育・文化施設の整備	24.0%	23.9%	27.5%
高速バスの停留所整備	11.8%	18.8%	12.5%
観光資源の整備、観光資源紹介、連絡道の整備	18.4%	23.1%	30.0%
パーキングエリアにおける地元の情報の提供や特産品の販売	31.8%	33.3%	30.0%
その他	2.8%	1.7%	0.0%
有効回答者数(=n)	n=321	n=117	n=40

#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

問13. 最後に、まちづくりについてのご意見やアイデアがありましたら、ご自由にお書きください。

意見記入者：149名（「意見なし」等の記入者は含みません）

主な内容	意見数	意見の例
施設の充実	41	
（ショッピングセンターなどの店舗の充実）	（28）	デパートなどを誘致してもいいと思う。 大型ショッピングモールをたくさん建てたほうがいい。 でかい店をつくり、でも自然を壊さないようにする。
（施設全般の充実）	（5）	人と人とのコミュニケーションがとれる施設をつくる。 自由に使える施設がほしい。
（スポーツ施設の充実）	（4）	スポーツ施設をもっと建てたほうがいいと思う。 スポーツジムなどがほしい。
（カラオケなどレジャー施設の充実）	（4）	市内にカラオケがあると嬉しいです。 レジャー施設をつくろう。
自然保護、環境対策	31	
（自然、環境保護）	（26）	自然は残しておいてほしい。 市の活性化も大切だけど、環境も大切にしてほしい。 もっと皆がふれ合える環境づくりをしてほしい。
（ゴミ対策）	（5）	地域の人が協力して、ゴミ拾いなど町をきれいにする。 ゴミ拾いをしっかりとやる。
医療の充実、医師の確保	16	まずは市民病院から立て直すべきだと思う。 医師を確保してほしい。 病院がなくて豊川まで行くのは不便。
交通対策	10	
（飯田線本数の増加）	（3）	飯田線の本数を増やしてほしい。
（道路整備）	（3）	高速道路を早くつくってほしい。
（バス本数の増加、利用料金の値下げ）	（2）	バス利用者はめったにいないようにみえる。料金は高い。
（交通全般）	（2）	交通機関は細かく走らせてほしい。
観光整備、特産品のPR	6	自然を守りつつ観光地などをつくってほしいと思う。 地域の名産をPRしてほしい。
イベント、祭りの充実	4	祭りを増やすようにお願いします。 イベントをひらく。
働く場の確保	3	働く場がないと外に出て行ってしまうことになる。
文化、伝統の継承	2	長篠の戦いなどの文化や伝統を残していきたい。
携帯電話通話地域の拡大	2	ケータイ電波の受信地域が広がれば山にも新しく人が来てくれる。

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

### ○市民ワークショップ

- 1 目的 総合計画策定に伴い、めざす市の将来像の実現や市の課題を解決するための施策、事業についての提案・アイデアを探求するために実施。また、住民参加によるまちづくりの機会として、総合計画策定を市民にPRし、意識啓発の効果をねらうもの。
- 2 名称 「しんしろ！まちづくりワークショップ」
- 3 対象 40人程度を募集（全3回を通して出席することを基本とした。）
- 4 内容 テーマごとにグループを作成し、ファシリテーターの司会進行により議論を行う。（ファシリテーター及び全体司会は豊橋技術科学大学が実施）

<p><b>テーマ1 「地域のお宝」どう活かしますか？</b>          ～文化財、史跡、観光資源の課題と活用策を考える～          関係する専門部会：自然環境部会・教育文化部会</p> <p><b>テーマ2 安心して子供を産み、育てるには？</b>          ～子育て支援、子育て環境を考える～          関係する専門部会：安全安心部会</p> <p><b>テーマ3 過疎をどうする！ 山間地域に住み続けるには？</b>          ～市域全体のバランスある発展を考える～          関係する専門部会：産業部会・行財政部会</p> <p><b>テーマ4 第二東名開通後の市のすがたは？</b>          ～市の土地デザインを考える～          関係する専門部会：住環境部会</p> <p><b>テーマ5 「協働」ってなに？</b>          ～住民自治社会における公共サービスの役割分担を考える～          関係する専門部会：総合・協働部会</p>	<p>応募者0人のため 廃止</p>
--	------------------------

### 5 開催

開催	日時	概要
第1回	6月30日（土） 19:00～21:00	総合計画の概要説明、自己紹介 テーマに関して、住民から見た課題を議論
第2回	7月6日（金） 19:00～21:30	課題に対して、具体的な内容検討や解決案、代替案を検討
第3回	7月20日（金） 19:00～21:30	まとめ 具体的な内容の検討や役割分担

### 6 場所 市民体育館第1・第2会議室

### 7 参加状況

グループ	テーマ	参加者 (人)	出席者数(人)		
			1日目	2日目	3日目
1	テーマ1	6	5	5	5
2	テーマ2	5	5	5	3
3	テーマ3	4	4	4	4
4	テーマ3	4	3	4	4
5	テーマ5	7	7	6	6
合計		26	24	24	22



※延べ参加者数 70人

### ●ワークショップ実施にあたっての各グループの様子とまとめ

- 1：参加者は、行政の観光に対する方針を明確に打ち出すことを強く望まれていました。また、お宝をどう活かすかについては、まず住民と行政等と一緒にどの部分を観光に利用し、どの部分を地域で守っていくかを検討する必要がある。そのためにも今後、点検作業・ワークショップ等の実施の必要があるという意見が出ました。

ツアーやイベントについては、豊富なアイデアが出され、今後活用することができる情報があります(まとめの表を参考)。
- 2：医療状態にかなりの危機感を持っていると共に、参加者の方が現状を良く知っていることから、具体的な対策提案が出ており、制度とソフトの両面での取組について、議論が行われました。制度については行政主導で、小児医療を中心に医療サービスへの早急な対応が必要と考えられていました。

また、女性参加者が多く、議論の内容もきめ細かな点についても議論されていました。
- 3：過疎についてのそれぞれの現状や問題についての具体的な対策提案が行われ、課題に対する意識も高いことから、制度や仕組みによるアイデアが出ていました。

ソフト的な取組のアイデアも提案されましたが、意識の向上面についてはやはり難しく、一歩踏み込んだかたちの提案にするのは難しかったです。課題が大きいことから、今後も継続的に意見交換やワークショップ等が必要であるとのことでした。

次回ワークショップの際には「限界集落」や「担い手の育成」などテーマの設定がより細分化されていると、より具体的なレベルでの対策や意識向上が可能になるとの提案も頂きました。
- 4：過疎を悲観的ではなく、むしろよいことの面に注目して捉えていく視点からの議論もなされ、具体的な対策提案として実作業の内容は少ないですが、仕組みやそれぞれの立場の役割についても考えられていました。また協働や連携といった体制づくりについて、単に住民ではなく、住民(ミクロ)や地域(マクロ)という視点からも議論されていました。
- 5：「協働」についての定義をはじめ、概念的な内容・方向付けを確立していくことについての意見交換が活発だったようです。最終的に、最低限の共通概念をしっかりと共有させて、それぞれが具体的な活動を各分野で行っていくという形で落ち着き、意識的な面での課題が大きいことから、メディア等の可視的な取組提案が多くなされました。また、ワークショップについての在り方についての提案がなされると共に、継続的な実施が希望されました。

※グループ討議の内容

●グループ1：「地域のお宝」どう活かしますか？

課題となるもの	課題の内容	対策案など(分担や進め方など)
文化財の現状と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・維持管理がもっと必要。</li> <li>・知らないものがいっぱいあるのでもっと PR が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財については、維持管理等は行政主導が多い。</li> </ul>
つながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財と現代の文化を結びつける視点が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルートやツアー、マップを作成する。</li> <li>→観光も視野において</li> </ul>
バス路線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バスの充実</li> <li>・JR との連携活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3 地区を回る周遊型ルートの整備</li> <li>・公共交通の連携により交流人口の増加をねらう。</li> </ul>
駐車場等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場、トイレなどの公共施設の整備が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の整備自体は行政主導で進める。</li> </ul>
観光の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どういう観光にするのか</li> <li>・市の観光に関する方針をもっと明確に出す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず地元の間人が守りたいものを考える場を設けて観光に使うものを決める。</li> <li>・何を観光に活かすかを、行政と市民も一緒に選び、方針を決める。</li> </ul>
全体 PR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お宝も含め PR が必要。</li> <li>・内外の人に対する PR が必要。</li> <li>・行政は新城をどう PR しようと考えているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に行政主導になるが、ガイド等はボランティアが中心になるものもある。</li> <li>・行政主導だが、ボランティアも参加してガイドマップやツアーコースを考え、実施の際にもガイド等で参加する。</li> <li>・ボランティア中心の「我が町知りたい隊」を組織して、お宝を整理する。</li> <li>・昔やっていたバスでお宝を回るツアーをもう一度行い、その情報を広報していくと共に、蓄積したものをまとめて副読本にして教材などにする。</li> <li>・イベント案は個別成果物を参照。</li> </ul>
全体協働に関する問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料館等に学芸員が必要。</li> <li>・ボランティアの必要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員を最低 1 人配置してもらえるように行政は是非検討して欲しい。嘱託職員などで地域の博士的な人に協力してもらおう。</li> <li>・全体として、色々な種類のボランティアを設置する必要がある、行政がバックアップする。</li> <li>・うまく団塊世代を巻き込むようにする。</li> </ul>

●グループ2：安心して子供を産み、育てるには？

課題となるもの	課題の内容	対策案など(分担や進め方など)
保育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育環境の整備。</li> <li>・合同保育の必要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政は情報交換の場(広報やネットワーク)を整備し、民間の保育施設は特色ある環境づくりを提案して住民や NPO はサークル等を設ける。</li> <li>・行政は合同保育に取り組み、保育園合併や土曜保育を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス基準の統一が必要。</li> <li>・合併によるサービス低下。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園が努力してどこでも同じサービスを提供する。</li> <li>・合併による統合で前より保育所が遠くなったりしているという問題もある。地域の実情を加味して欲しい。</li> </ul>
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療サービスの向上</li> <li>・病院へのアクセスが悪い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政は医療制度づくりを進め、病院は電話救急による相談を充実させると共に、保育士や助産士の無料個別訪問等を行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療サービスの向上</li> <li>・産婦人科医や小児医療の不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政は新城に勤務することを条件にした奨学制度づくりを行い、学校と病院はその認知活動に取り組む。</li> </ul>
社会環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージづくりが必要。</li> <li>・意識変化が必要。</li> <li>・若い祖母の出現(働いていて子供の面倒をみられないなど) (未検討)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政は里親制度を実施する。</li> <li>・行政と民間で協力して、CM 等を活用して情報公開したり、メディアに取り上げられるような活動を行う。</li> <li>・行政、学校、住民が一体で普段から新城市の良さを子供の頃から植えつけていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識向上(男性)</li> <li>・独身男性の増加(未検討)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識向上のために住民が中心となって男性の料理教室のようなイベントを設ける。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会環境支援が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政は住宅や学費の補助制度をつくって支援を行うと共に、働く場づくりも進める。</li> </ul>
教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強の環境を整える。</li> <li>・小学校のクラスの人数を減らして欲しい(未検討)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強する環境を整えるために、使える公共施設等を開放する。</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉課等の未活用。</li> <li>・制度を知らない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア等を利用して、市の制度や役立つ情報を提供する。</li> <li>・市も積極的に PR すると共に、サービスを充実させる。</li> </ul>



#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

##### ●グループ3：過疎をどうする！山間地域に住み続けるには？

課題となるもの	課題の内容	対策案など(分担や進め方など)
集落機能の低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住政策の推進</li> <li>・高齢者支援(未検討)</li> <li>・若い担い手の不足(未検討)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民による用地提供と住民主体での住民意識アンケートの実施。</li> <li>・行政、住民、専門家で廃村前に対策を考える。</li> <li>・行政と地主で、新たな公的住宅の提供の検討や割安で広い住宅用地を整備する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土意識の高揚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政区、コミュニティ単位で郷土について話し合う機会を設ける。</li> <li>・高齢者を中心とした住民が主体となって、現代版の寺子屋を開講する。</li> <li>・学校のOBなどの人的資源を活かして、住民が全員参加で、三世代学級やふるさと先生を行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員参加型のイベント作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民主体で、伝統行事等をきっかけに親睦を推進する。</li> </ul>
住民意識の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規住民の受け入れ体制の整備</li> <li>・子供の地元への愛着づくり(未検討)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政は休耕地や空き家を活用して新規住民の受け入れ体制をつくる。</li> <li>・また、行政は情報発信を強化する。</li> <li>・住民は新規住民を地域行事に誘う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の点検作業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政区の住民と専門家が協力して、病院・防災・環境などの実態を明らかにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の魅力づくりとPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民、NPO、専門家がまず、点検を通して地域の魅力を発見する。</li> <li>・分担は難しいが、宿泊施設を整備する。</li> <li>・商工会、観光協会でおもてなしの心を育てる。</li> </ul>
快適な生活環境の欠如	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民病院の再生</li> <li>・医療体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市は、市内で働く医者を養成するための助成金制度を設立する。</li> <li>・国、県、市は開業医を活用して市内の体制整備と情報発信を行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民と行政が協働して点検作業を行う。</li> <li>・行政は電話等の情報基盤の整備や道路整備を行い、使われていない企業用地や工業団地へ企業を誘致する。</li> <li>・行政と住民(高齢者中心)で森林資源の利用促進と山村生活体験の提供と運営を行う。</li> <li>・行政は市内の高校に林業科を設ける。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にふさわしくない施設の規制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市で条例を作る。</li> </ul>

●グループ4：過疎をどうする！山間地域に住み続けるには？

課題となるもの	課題の内容	対策案など(分担や進め方など)
意識・価値観の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過疎をどう捉えるのか。</li> <li>・新規住民への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値観を変えることは難しいが、文化や情報などの地域の良いところを発信するなどして、過疎の良い方向へ持っていく。</li> </ul>
	第1ステップとして 過疎の認知と地域情報の共有による協働の土台づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の長所を探し、相互に共有することで、新市としての自信を持つ。</li> <li>・過疎を認識して、何が必要か考えて、まちの方向性を決めて目標像を明確にする。</li> </ul>
生活における拠点がな	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業がない。</li> <li>・Uターンもしづらい(労働・教育の場が少ない)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活についての協力・共存により、不足を充足に導くようにする。</li> <li>・地域の特長を活かした教育の場所をつくり、Uターンを誘い、市外に人が出て行かないようにする。</li> </ul>
	第2ステップとして 住民を中心とした三位一体の協働行動 具体的な行動と過疎教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三位一体の中心となって連携を行う。</li> <li>・行政より先行して林業や農業などの新しい取り組みを実践し、行政を引っ張っていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域(マクロ)な視点の取組(過疎教育など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ多くの人に参加してもらえるように意識の向上を図る。</li> <li>・教育を通して、若い世代に過疎を正しく理解してもらう。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政(拠点作りにおいて担う役割)の立場からの取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポート及びアドバイスをを行う。</li> <li>・行政と住民の協働に向けた意識の改革等を進め、本格的な協働のための受け入れ体制を整える。</li> </ul>



●グループ5：「協働」ってなに？

課題となるもの	課題の内容	対策案など(分担や進め方など)
「協働」についての認識	「協働」の定義をつくる必要がある。 ・協働という意識がまだ低い。 ・欧州等との格差	・協働の定義を国、県、市のそれぞれ違っている ・「協働」＝ボランティア ・住民は無意識のうちに「協働」を行っている。 ・実際は定義として決めづらいが、新城なりの「協働」を目指す。
	「協働」の定義をつくる必要がある。 ・ゆるいルール、約束をつくる。	・定義は難しいため、協働のためのルール、ルールブックをつくっていく。 ・最低限の約束事を設けて決まりにしていける。例としては、必要に応じたWSの開催。
	各々の関係性と役割の在り方。	・行政や住民、NPO、企業といった様々な人が集まる場や団体がそれぞれの立場で参加する。 ・住民と行政の間の緊張感を持つ。
協働の現状と取組	情報の交流の場・行政によるサポート(資金意外でも) ・情報共有の必要性	・市民同士や市民と行政での情報共有が必要なため、HPやコールセンター、携帯電話配信サービスやブログ、CATVの活用。 ・住民同士用のHP作成などにより、WSに来ていない人などにも情報提供する。
	・自治組織の現状	・現状として、自治会に入らない人が増えてきたことによって、十分に機能していない可能性がある。
	・ワークショップの在り方	・ファシリテーターは、住民や行政、NPO、企業など様々な場合が考えられる。 ・行政はWSなどのイベントのPR活動を行う。 ・住民はWSなどのイベントへの参加を促す。また、区長さんなどは積極的にWS等へ参加するようにする。

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

ワークショップまとめ 別紙

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

ワークショップまとめ 別紙

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

ワークショップまとめ 別紙

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

ワークショップまとめ 別紙

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

ワークショップまとめ 別紙



#### 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

##### ○ 総合計画専門部会 各種団体とのヒアリング報告書（まとめ）

【 12回 27団体】

部会	番号	団体名等	ヒアリング日程	実施概要
産業部会	1	愛知東農業協同組合	7月6日（金） 10：00～	市内の産業に関する課題を専門部会においてまとめたシートを元に意見を聞いた。 また、課題に対しての解決方法や市政への要望など提案をいただいた。
	2	新城市森林組合	6月28日（木） 13：00～	間伐等施業の状況と整備を進めるうえでの課題を聞いた。また、林業施策への提案をいただいた。
	3	新城市商工会	6月22日（金） 10：00～	新城地区の商工業の現状と課題、考えられる解決策について、また、早急に市政へ要望することなどについて意見を聞いた。
	4	鳳来商工会	6月25日（月） 10：00～	鳳来地区の商工業の現状と課題、考えられる解決策について、また、早急に市政へ要望することなどについて意見を聞いた。
	5	作手商工会	6月28日（木） 10：00～	作手地区の商工業の現状と課題、考えられる解決策について、また、早急に市政へ要望することなどについて意見を聞いた。
	6	新城市観光協会	6月22日（金） 10：00～	協会の抱える課題と問題点、また市政への要望について意見を聞いた。
	7	新城市農業委員会	7月25日（火） 17：00～	委員会が特に取り組みを行っている遊休農地対策について話を聞いた。
住環境部会	8	特定非営利活動法人しんしろドリーム荘 新城市地域ITリーダー	6月26日（火） 14：00～	「情報化社会への対応」をテーマに、今後の市内の情報化に対して取り組むべき方向を話し合った。
教育文化部会	9	新城市文化協会	6月27日（水） 10：30～	文化協会の現状や課題、市への要望について意見を聞いた。
	10	新城市体育協会	7月25日（火） 13：00～	体育協会の現状や課題、スポーツ振興について、体育協会事務局職員より意見を聞いた。
安全安心部会	11	子育て中のお母さん方（60人） +主任児童委員等（8人）	6月8日（金） 11：00～	0～2歳児の母親を対象に、不安、困りごと、保育サービスへの意見など意見を聞いた。
自然環境部会	12	環境活動団体（14団体） 【新城生活学校】【暮らしと環境を考える会（りさいくる21）】 【東新町の環境を考える会】【世界の桜の園を作る会】【(N)森林真剣隊】【(N)間伐支援隊】【まなびWAVE】【農村輝きネット・しんしろ】【ダイズの会】【鳳来山自然科学博物館友の会】【作手自然愛好会】【奥三河自然保護研究会】【三河生物同好会】【豊川森の健康診断実行委員会】	7月11日（水） 19：00～	環境に関する活動を行う団体に呼びかけ、同席してもらい、団体の活動内容、団体がかかえる課題、市政に希望することなどを発言していただいた。

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

### ○パブリックコメントの結果

- ・ 期 間：平成 19 年 11 月 26 日～平成 19 年 12 月 25 日
- ・ 意見数：4 人（提出方法は左表のとおり）
- ・ 意見及び市回答の内容は以下のとおり

提出方法	人数
直接持込	1人
郵送	1人
FAX	1人
電子メール	1人
合計	4人

#### 「第1次新城市総合計画 基本構想（案）」パブリックコメントまとめ

##### ○意見 1

意見の概要	新城市の考え方
<p><b>1 新城茶とみかんとりの仕事をするおたすけ隊の設立。</b> 新城茶はおいしいので友人にも送っていますが、年々茶畑がなくなり、茶工場が閉鎖される様子を寂しく思っています。 そこで、退職後の方や主婦を対象に、お茶の仕事とみかんとりの仕事に週3～4日の手配等行う。また、茶とみかんの閑散期には農地の草刈り隊として活躍していただくことで、高齢化で稲作をあきらめる農家をサポートし、休耕田を防止することはどうでしょうか。</p> <p><b>2 国道151号沿い（八束穂周辺）に道の駅を設置する。</b> 休日の国道151号はとても混むのに、商店街は寂しいため、道の駅のような所をつくり、地元商店の品や、地元農産物を置いた共同店舗を設置し、市を開催するなどして、一つの店で効果をあげてはどうでしょうか。</p>	<p>ご意見にありました、近年の農業離れとそれに伴う農村環境の変化、また、商店街を含めたまちの活性化対策は、課題であると認識しています。 これまでのまちづくりは、公共的な面から行政の仕事として捉えられがちでしたが、今後は、退職期を迎えた団塊の世代の方々や主婦を含めた市民、各種団体、行政がそれぞれの役割を認識し、まちづくりを協働で進めていただくことが重要であると考え、基本構想（案）にまちづくりの基本理念として、その旨を記載しています。 なお、今回ご提案いただいたアイデアは、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。</p>

##### ○意見 2

意見の概要	新城市の考え方
<p><b>老いの住処を新城へ</b> <b>提言「福祉の郷 しんしろの創生」(都市と地域の連携事業の活用)</b> 【施策】 1 都会の自治体と提携し、老人ホームなどを積極的に誘致する。 2 中心市街地は一応何でも整っているという利便性を生かし、老いの居住空間として開発する。(商業地域としての復活は時遅しの観が否めない。) 3 市民病院は老人総合科のような専門性を打ち出し、東三河の老人拠点病院としての地位を確立する。</p>	<p>高齢化社会における、愛知新城大谷大学や中心市街地の役割をとらえた非常に前向きなご提案です。 特に、基本構想に掲げる4つの基本戦略のうち「自立創造」と「安全・安心の暮らし創造」の2つに係る提案や、具体的なアイデアでありますので、今後の施策の展開や事業を進める上での参考にさせていただきます。</p>

<p><b>老いの住処を新城へ</b> <b>提言「福祉の郷 しんしろの創生」(都市と地域の連携事業の活用)</b> 【施策】 1 都会の自治体と提携し、老人ホームなどを積極的に誘致する。 2 中心市街地は一応何でも整っているという利便性を生かし、老いの居住空間として開発する。(商業地域としての復活は時遅しの観が否めない。) 3 市民病院は老人総合科のような専門性を打ち出し、東三河の老人拠点病院としての地位を確立する。 4 新城大谷大を福祉のシンクタンクとして活用する。     (「福祉の郷 しんしろ」構想に大谷大が関ることで、その評価を受ける。大谷大の延びゆく道も、そこにあると思われる。) 5 市民皆ヘルパー3級を推奨する。     (大人版ファミリーサポートセンターを立ち上げて地域を支えることで、市民が支えあう福祉の郷を実現したい。) 【目指すこと・期待できること】 1 老人ホームでの労働対価を公務員並みにし、質の良い労働力を維持する。 2 高齢者のニーズに適した店舗展開で中心市街地を活性化させる。 3 消費拡大のヒントは、街なかのゆったりとした人の流れの中にある。 4 昔の御用聞き制度の復活と購入商品の宅配サービス、宅配弁当等の生活支援事業の充実を図る。 5 老人ホーム等へは地元で取れた新鮮で安全な野菜を供給することで、農業の活性化が期待できる。 6 老人ホーム等の入居者を家族や知人等が訪ねてきたときのための、貸し部屋・貸しペンション等の検討を行う。 7 最終的には、他の福祉施設等も誘致し「福祉の郷 しんしろ」を実現する。また、関連事業の育成等、雇用の拡大・促進につなげていく。 ※新城の自然を大切にす施策でありたい。 安易な自然破壊は赦されない。これからのどんな施策にも、有効利用されていない土地や施設等の活用から考えて欲しい。</p>	
---	--

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

### ○意見 3

意見の概要	新城市の考え方
<p><b>1 環境問題と地域の再生の視点から、森林が吸収するCO2に新たなインセンティブを付与することで、地球温暖化防止と当地の再生を繋げるカーボンオフセットシステムを！</b></p> <p>奥三河森林のCO2吸収源に、カーボンオフセットのような、市場原理を活用した新しい制度を創設し、森林所有者自身に新たな経済的インセンティブを付与することで、環境への貢献や森林と地域の明日に夢が持て、森林所有者が自発的に森林経営に踏み出すことができる新城市独自のシステムを検討していただきたい。</p> <p>その手法として、木材市場価額の他に、現森林諸法・現施策を活用し京都議定書がCO2吸収を認める森林経営に対し、吸収量（生長分）を算定して、森林所有者・事業者にクレジットを発行、経済的なインセンティブを措置するとともに、当面は市独自でクレジットの買い取り保障機構を創設、将来的には「カーボンオフセットシステム」の構築を提案したい。更に、森林経営を通して発生する間伐放置材や用材伐採後の端材、枝など木質廃棄物等の木質バイオマスとしての代替燃料化による省エネ（CO2削減）カーボンオフセットで森林経営にインセンティブを付与する。</p> <p>当地にとっては、特区の指定、農山漁村活性化増田プランもよいし、愛知県環境税、豊川水源基金の活用や、当市独自のIT整備、豊川流域圏経済の一体化を視野に入れば、川下にはトヨタがあり、中電火力発電所があり、枠組み研究には、三遠南信産官学連携の芽生え、市内に県林業センターを抱えるなど、他の先進事例に比して条件は整い機は熟しているのではないだろうか。</p> <p><b>2 現在整備中の情報ネットワークについて</b></p> <p>平成18年12月付け「新城市地域情報化計画」を通読して、また、この「基本構想（案）」を見て、現在整備中の光ファイバのさまざまな活用の可能性は読み取れるが、具体的なIT戦略（行政サービスの活用計画）が示されないのが不満である。</p>	<p>1 基本構想（案）では、基本戦略の一つに「エコシティ創造」を掲げ、環境に配慮した取組みを推進することとしています。ご提案にある「森林所有者が自発的に森林経営に踏み出すことができる新城市独自のシステム」は、本市の森林政策、環境政策の大きな目標となり得るものと考えます。自然環境は本市の特徴であり、森林はその多くを担うフィールドでありますので、具体的な取り組みに向けて調査・研究を進めるべき課題であると考えています。</p> <p>2 本市の情報化施策は、都市部との情報格差を解消し、市民サービスの向上や情報の共有による市民自治社会の実現、地域産業の発展など、地域間競争力に耐えうる地域力増進のための戦略と位置づけられており、情報基盤を整備することを第一に考えています。ご意見のとおり、その後の行政サービスの活用計画については、厳しい財政状況のもと具体的にお示めできていませんが、できるだけ早期に選定を終え、サービス内容をお示ししていく必要があると考えています。</p>

### ○意見 4

意見の概要	新城市の考え方
<p><b>1 P2 社会経済情勢の変化と新しい地方自治への展望 23行目～「国のナショナルミニマム～」云々</b></p> <p>自治体の財政を圧迫してきたのは、国の政策によるばかりではない。行政府自身にも「自己増殖」的な体質があったのではないかと。住民ニーズへの対応だけで肥大化したのか、検証を促した謙虚な表現にすべき。</p> <p><b>2 P4～（3）地域の多様性</b></p> <p>地域ごとの立場を「理解し認め合うこと」と言ってしまうと、地域エゴを温存することになるのではないかと。「地域間で協力し、より良い共通認識を構築し、早急に一体化を目指す」というようなリードの仕方が必要だと思ふ。また、「尊重すべき地域の多様性」と「一体化を損なう問題」とは、実のところ別物なのではないかと。</p>	<p>1 これまで、国・地方を含めた行政（自治体）が行ってきた行政経営の考え方が、今日の行政サービスの範囲と依存度を膨張させる結果となったことを客観的に述べているものであり、ご指摘のように、本市を含めた地方自治体の責任を国の政策に転化しているものではありません。また、「住民ニーズへの対応」の表現は、自治の補完性についての説明であり、多様な住民ニーズに応えるにあたって、「公共サービス＝行政サービス」としてきた地方を含めた行政経営の問題点を述べたものです。</p> <p>2 『「尊重すべき地域の多様性」と「一体化を損なう問題」とは別物ではないか。』とのご意見に同感です。本文にある「一体化」は市民の心のあり様であり、地域の多様性や個性あふれる文化等が本市の大きな魅力であることを市民同士が認め合い、多様性や個性の背景にある生活環境の違い、そこから生まれる住民ニーズの違いを理解しあうことが一体化には必要である旨を述べたものです。合併前に旧3市町村間で異なっていた行政サービスや施策の内容の統一についての記述ではないこと、また、「早急に一体化をめざす」ことを前提とした記述であることをご理解ください。</p>

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

意見の概要	新城市の考え方
<p><b>3 P 4 (4) 地域の活力を支える産業の創出</b> 産業についての記述が、指摘止まりとならないように。又、実業界等のリーダー的存在の方が市域に渡る具体的な産業振興および創出策を考えていただくシステムを用意する必要があるのではないか。</p> <p><b>4 P 6 (2) 計画策定の新たな視点</b> ア 「新たな公共」の視点 「市民も又公共の担い手」であると市民に向かって言うには、相当丁寧な説明が必要である。財政が逼迫しているから、官のやるべき仕事を民がやる、ただそれだけの構図だとは思わない。財政逼迫などの社会情勢を根拠にした補完的考え方で市民を使うというレベルの話でもない。 又、まず、行政府自らの意識・態度がこの考え方の受け皿にふさわしいレベルにまで昇華していくことが不可欠。</p> <p><b>5 P 8 6行目 取捨選択(事業の入れ替え)</b> 多年度に渡る計画の扱いは。計画が朝令暮改にならないように、計画を捨てる場合は起承転結をはっきりし、取捨選択するための歯止めが必要。</p> <p><b>6 P 9 まちづくりの基本理念</b> この程度の説明で先に進むと、行政府と市民との間に新たな溝ができる可能性があるのではないか。 図4「市民参加」と「協働」の概念図の「市民」欄に「納税者」の位置づけを加えるべき。</p>	<p><b>3</b> ご指摘の「市域に渡る具体的な産業振興および創出策を考えていただくシステムを用意する必要」については、基本構想(案)の21ページ、第2章7(2)「自立創造プロジェクト」の記述においても、「新たな産業戦略の展開については、農協や森林組合、商工会、企業など地域内の産業団体同士の連携を軸に進める」としています。ご指摘の「具体的な取り組み」についても、地域活力につながる新たな展開を図るよう努めていきます。</p> <p><b>4</b> 今回提案の「新たな公共」は、社会経済情勢の変化や市民ニーズの多様化・複雑化、価値観の多様化が進む中、市民が本当に必要とするサービスを市民自らが選択し、より満足度の高い持続可能な地域社会「市民自治社会」を築いていくためには、「公共」のあり方を見直すことが必要であるとするものです。 そこで、まず、「行政自身が市民満足度を基調とした成果重視型の経営へと転換を図ること。」「行政の経営戦略を市民に示し、進捗状況の公表、評価、見直しを市民視点で進めること」が急務であると考え、今回の基本構想(案)においても、「行政経営の基本方針」(26ページ)として示しています。ご指摘のあった「財政状況が厳しいから新たな公共を掲げ、市民負担を求めろる」のではなく、市民自治社会の実現に向けて本来の公共の姿を再構築すること(市民と行政の適正な役割分担)を、「新たな公共」の視点として提案しています。</p> <p><b>5</b> 「取捨選択ができる制度」は、中長期の計画を定めた場合、その後の社会経済情勢や市民ニーズ等の変化により、施策の目的を効果的に達成する事業としてふさわしくないものが硬直的に残ることを防ぐための制度を構築しようとするものです。具体的には、市長任期ごとや毎年度の予算編成時に行う行政内部評価、市民評価によって行うものと考えています。31ページから32ページの基本構想(案)第3章で、「基本計画に登載された事業の見直し・追加・入れ替えを行う際には、事前に総合計画市民委員会へ諮る」としたのも取捨選択の明瞭性を保つ手段と考えています。</p> <p><b>6</b> ここでは、まちづくりの基本理念を総論として述べているところであり、具体的な展開については、基本構想(案)をはじめ、現在、総合計画審議会で審議中の基本計画やそれに続く実施計画の中で明らかにしていきます。また、まちづくりの基本理念とした「新たな公共が導く市民自治社会の実現」や市の将来像について、今後ともあらゆる機会を通じ分かりやすい説明に努めて参ります。 図4「市民参加と協働の概念図」については、有権者・従業員・消費者とある「市民」の欄に、ご指摘の「納税者」を追加するよう修正します。</p>
<p><b>7 P 10 18行目 ~市の将来像~</b> 「地域内分権」の意味やイメージが不明。合併の目的である効率化に反するものではないか。ここは、行政区への分権と解釈してよろしいか。</p> <p><b>8 P 12 土地利用の方向 基本指針④~農地の保全・流動化~</b> 農地の流動・集約はそう簡単ではない。借主に有利な貸借関係のアンバランスや耕作者を探すことが大変である現実を無視しての流動化推進はあってはならない。文言を「適切な流動化」のように何らかの含みを持たせた表現に訂正すべき。</p>	<p><b>7</b> 地域内分権は、市民、地域、市場への分権が考えられますが、21ページの重点プロジェクトの「ウ 地域内分権と行政区の再編」では、市民自治社会の実現と地域の潜在的な活力『地域力』を向上させる地域経営を進めるため、地域の特性や主体性を尊重しながら、地域自治区の設置、テーマ型地域自治区の設置をめざす旨を述べています。33ページの解説にもありますが、地域自治区は「住民の身近なところで住民の身近な事務を処理する、住民と行政が協働して担う地域づくりの場」と位置づけられ、市長権限に属する事務の一部(及び予算)を分掌することで、市民自身が地域課題を解決しやすくする仕組みといえます。 ご指摘の「行政区への分権か」については、行政区や行政区の集合体がまず想定されますが、既存の枠組みにこだわらず、地域内分権の受け皿としてふさわしい地域自治組織等について研究し、市民の理解を得ながら提案していきたいと思えます。</p> <p><b>8</b> 農地の流動化にあたっては、ご指摘のような諸問題があることを認識しています。ここでは、土地利用の基本理念を達成するための基本指針を述べたものであり、土地の有効利用においては、森林、市街地等を含めすべてが適正に行われることが前提であると考えます。「適正」の内容については、農業振興計画等の個別計画に委ねることとなります。</p>

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

意見の概要	新都市の考え方
<p>9 <u>P16 表中「新都市を取り巻く外部環境」機会【社会経済情勢】</u> 「市民自治、ボランティア意識の高まり」とあるが、どのような調査等の結果を持って根拠としているのか。当市における具体的な根拠を示すべき。他の項目についても同様。</p> <p>10 <u>P17 (3) SWOT(スウオット)分析</u> 一行目「全節」は「前節」の誤りではないか？</p> <p>11 <u>P20 7-(1)-ア「地域計画」の策定</u> 地域計画を策定する際の地域割り規模（「地域」の定義）と策定者および策定基準が示されていない。雛形のないうまま個々に策定した計画は、平等性を損なう恐れがあり、総合計画を審議する場面でも策定基準がないままこの計画の賛否を問うのはナンセンスといえる。 合併以前の計画は生かされるべきだが、一本の策定基準に沿ったものに修正し、他の計画との整合性も考慮すべき。基本的に旧市町村の枠組みで地域割りをすることに反対であり、本庁で一括管理・公開性にするべき。 文中、「～地域計画をもつ地域において事業を行う際には、～」とは、地域策定計画は任意制度という前提なのか。地域計画の策定できない地域への施策は後回しになるのか。</p>	<p>9 SWOT分析における外部環境「機会：社会経済情勢」は「市民ニーズ」を除き、本市に影響を及ぼす外的要因を列挙する部分であり、全国的な傾向を含め記述してあります。本市の状況としては、6月に実施した市民アンケートにおいても、「住民自治活動に参加している」と答えた方が51.8%を占め、さらに「参加したい」を含めると78.6%の方が意思を持っているとの結果を得ており、同様の傾向があると理解しています。</p> <p>10 ご指摘どおり誤記ですので、「前節」と訂正をさせていただきます。</p> <p>11 地域計画を策定する際の地域割り・規模については、地域の実情に応じ、複数の行政区の集合体や小学校区などを想定していますが、今後、市民の皆さんのご意見を聞きながら調整していきます。現在、「めざせ明日のまちづくり事業」でも地域計画の策定は取り組まれています。旧市町村で取り組まれているものを含め、新たな策定基準を示すことが必要だと考えます。 ご指摘の「地域計画を持つ地域については～」は、地域計画は市民の自主性を尊重するべきであり、すべての地域で一斉に策定が完了するとは想定していないための表現です。また、策定後の地域計画は公表をしますし、地域計画の有無と「地域への施策」の判断は別ものと考えます。</p>
<p>12 <u>P20 7-(1)-イ 市職員「地域担当制」の導入</u> 地域担当職員によって、地域をよく理解してくださるのは大変ありがたいが、担当職員が地区の行政業務の全ての窓口になられる事には反対。区長が直接担当部署に関わることで余地は十分残しておいて欲しい。市民や行政区が、「地域担当に言ってください」と、あしらわれることのないように。又この制度のために意思決定ルートが煩雑になるなど改革思考を逆戻りすることのないように願う。</p> <p>13 <u>P21 ウ 地域内分権と行政区の再編</u> 文中の「～地域自治組織としての機能（市民意見の集約、行政への提言、身近な地域課題の解決、自主的な財政運営などの機能）低下がみられ、個々の行政区が、新たな公共の担い手としてのサービスの提供者となるには困難な状況にあることも事実です。」は、全ての行政区に機能低下がある様に見える。自主自立の精神の旺盛な行政区の気概を逆なですするような表現でなく、また自主運営の不慣れ・困難な行政区を落胆させないような表現に変えるべき。</p>	<p>12 地域担当職員は、市民自治を推進するためのサポート役と考えており、地域におけるすべての行政業務の窓口になるとは考えていません。</p> <p>13 本文は、地域自治組織としての側面を持つ行政区に、新たな公共の担い手としてサービスを提供する役割を付加するには、克服すべき課題が多々あることを述べたもので、行政組織の一部としての機能を含め、行政区のあり方を地域自治区の設置に合わせて検討していこうとするものです。 ご指摘のような、自主自立の旺盛な行政区を含めたすべての行政区の機能低下を意図したものではありませんので、記述の一部を以下のとおり修正します。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">訂正文：21ページ10行目から14行目</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">（下線部分は追記、二重線部分は削除）</p> <p>さらに、<del>全市の傾向として、</del>行政区の規模的格差の拡大や地域自治組織としての機能（市民意見の集約、行政への提言、身近な地域課題の解決、自主的な財政運営などの機能）の低下が各所でみられ、個々の行政区が一律に、新たな公共の担い手としてのサービスの提供者となるには困難な状況にあることも事実です。</p>
<p>14 <u>P25 イ 環境の保全と共生への取り組み～エコアクション～</u> 森林政策には、林業からの視点ばかりでなく、動物との棲み分けや雨水の涵養力の向上対策なども盛り込んでいただきたい。自然との共生全国モデルを創出するくらいの取り組みを期待する。造林一本やりの結果を持って「豊かな自然」と表現するのは、広い意味での「自然」に対して不適な感じがする。</p> <p>15 <u>P28 ア 財政～財政運営～</u> 下から3行目、財源確保のために行政が行う資金調達方法や投資事業とはどのようなものか。この計画のどこかに明記して欲しい。世間の収支目論みの甘い第三セクター運営の結末の轍を踏まないために、馬車が走り出す前に市民チェックが入るようなシステムにすべき。また投資事業についても、結果責任を追及できる体制を確立してから実施して欲しい。</p>	<p>14 本文は、森林政策に関する記述ではなく、森林を含めた環境の保全と共生への取り組みの具体例として、森林の持つ公益機能の拡大を述べたものです。ご指摘については、公益機能の拡大のための手法として、具体的な施策・事業の中で検討させていただきます。</p> <p>15 新たな資金調達方法としては、住民参加型ミニ公募債や寄附制度などが考えられ、投資事業としては、基金や土地・建物など資産の有効活用などを想定しました。なお、本文の「投資事業」という表現は、想定する内容と一致しないため、「資産活用」に訂正します。具体的な内容については基本計画に示します。</p>

## 4 住民アンケート・ワークショップ等の結果

意見の概要	新城市の考え方
<p>16 <u>P29 イ 組織 ～行政改革と行政組織～</u>            補助金と交付金の定義や意義を明確にすべき。補助金は市民の福利厚生対策であり、交付金は行政活動の円滑推進を促すものとして行政職員の給与に匹敵するもの。その加減についてはそれなりの平等性（対職員）が必要だと思う。            また、「～部課間の連携を進めます。」は、言葉だけでなく「連携」の具体的方法を計画のどこかに明記するか、他の実行計画のどこかに盛り込んでほしい。</p>	<p>16 補助金は特定の事務や事業を行うために交付する金銭であり、その使途が特定されているものです。一方、交付金は行政が特定の目的を達成するための必要性から交付する金銭であり、一般的に使途についての制限を設けないものと解しています。しかし、現実には補助金と交付金の境界が曖昧であったり、交付成果が十分に検証されないなどの問題を抱えています。</p> <p>このため、市では「補助金等検討委員会」の答申をもとに、本年度から補助金や交付金についての評価基準を設定し、その適正化を進めているところです。ご指摘の「行政費交付金」についても例外とすることなく、すべての補助金・交付金について、その交付目的や使途について、公共性、必要性、有効性、公平性等の観点から検証を進めています。</p> <p>ご指摘の「補助金は市民の福利厚生費」「行政区への交付金は行政職員の給与に匹敵する」とのご意見には、前述の目的や実態からして異論のあるところです。「給与」は労働の対価であり、「行政区事務」に対する労働の対価は別途「区長報酬」として支給していますのでご理解ください。</p> <p>また、「部課間の連携」については、基本計画の行政改革ビジョンにおいて記述を予定しています。</p>

テーマ1: 「地域のお宝」どう活かしますか?

～文化財、史跡、観光資源の課題と活用策を考える～

課題名	地区資源の PR 方法	公共交通の有効活用	どういう観光を目指すのか?	協働で進めるにあたって・・・	維持管理と活用
<p>課題となること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の文化財の存在を知らない。</li> <li>・わかりやすいガイドマップがない。</li> <li>・市民の人を知ってもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドマップを作成。</li> <li>・インターネットの活用。</li> <li>・市民参加型のイベントの開催・地元への PR 活動の促進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車スペースなどの施設の充実</li> <li>・公共交通の有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新城市は今後観光で推していくのか。</li> <li>・お宝全てを使うのはいかなものか。</li> <li>・お宝をどう使い分けるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料館等には学芸員の配置が必要</li> <li>・どんなボランティアが出てくるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お宝の維持管理がなされていないところがある。</li> <li>・お宝をどうやって守るのか。</li> </ul>
<p>対策とアイデア</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスや JR を連携させて活用</li> <li>・3 地区を回るルートなどバス路線を充実させる</li> <li>・お宝を回るミニツアーを計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光にしない部分を、まず地元の人が理解して維持していく。</li> <li>・観光の利が出るものは積極的に使う。</li> <li>・見せたいものと守りたいものをまず決めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘱託職員などの検討</li> <li>・団体を立ち上げるきっかけづくりや手伝い</li> <li>・ボランティアや団体の設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お宝の使い方を市民が選んで、守るところと見せるところを選ぶ。</li> <li>・駐車場や看板、トイレをきちんと管理する。</li> </ul>	
<p>対策の役割分担と実施の方法</p>	<div data-bbox="276 573 736 688"> <p>イベント 基本的には行政主導となる。</p> </div> <div data-bbox="276 699 736 835"> <p>イベント ボランティア(我が町知りたい隊等)を組織してお宝を整理する。</p> </div> <div data-bbox="276 846 736 1381"> <p>イベント 過去に行われた地域のお宝を見て回るイベントをもう一度行う。 →市バスを使って無料で行う →継続的に行う。 →広報で報告をする。 →蓄積した情報で副読本を作成。 →お宝パンフや地域のことをまとめたものとして、子供を中心にきちんと持っておけるようにする。</p> </div> <div data-bbox="276 1392 736 1560"> <p>イベント 日本一を集めたイベントを是非やりたい。</p> </div> <div data-bbox="276 1570 736 1717"> <p>イベント 桜淵公園のイベントなどを強化する。</p> </div>	<div data-bbox="768 573 1228 772"> <p>イベント 行政、企業(JR や名鉄など)と協力して、公共交通を組み合わせるコースを考える。</p> </div> <div data-bbox="768 783 1228 993"> <p>バス路線 3 地区を回る・お宝を回るコースを作り、そのルートを企業にバス路線にしてもらう。</p> </div>	<div data-bbox="1264 573 1724 688"> <p>イベント 基本的には行政主導となる</p> </div> <div data-bbox="1264 699 1724 867"> <p>ありのままの姿で PR する。 (無理をしない) (必要以上に大きくしない)</p> </div> <div data-bbox="1264 877 1724 993"> <p>最初から使えるところはどんどん観光として攻めてもよい。</p> </div> <div data-bbox="1264 1003 1724 1171"> <p>何を守り、何を積極的に観光にしていくのかを市民を交えて選ぶ・考える場が必要。</p> </div>	<div data-bbox="1760 573 2220 730"> <p>職員の配置など 行政だが、地域の博士のような人が入れるようにする。</p> </div> <div data-bbox="1760 741 2220 909"> <p>職員の配置など 資料館等では最低 1 人はそういう役職の人を配置する。</p> </div> <div data-bbox="1760 919 2220 1045"> <p>きっかけづくりや手伝い 行政がバックアップする</p> </div> <div data-bbox="1760 1056 2220 1381"> <p>ボランティア 団塊世代をうまくつかまえて参加してもらおう。 →そうでない人もいるが、まちづくりを楽しんでもらうという風になればよいのでは。</p> </div> <div data-bbox="1760 1392 2220 1602"> <p>ボランティア ツアーコースを考えるまで・実際のガイドを行うまでなど、それぞれにボランティアを設けて使い分ける。</p> </div>	<div data-bbox="2255 573 2715 772"> <p>文化財や資料館などの維持管理は基本的に行政主導で行う。 足りないところは嘱託やボランティアにする。</p> </div> <div data-bbox="2255 783 2715 993"> <p>お宝の使い方を市民が選ぶ場をつくり、守りたいものをまず取り組むようにすれば市民も管理に取り組みやすいのでは。</p> </div> <div data-bbox="2255 1003 2715 1171"> <p>何をどう守るかがきちんとしてから、管理をしながら外への PR を進める。</p> </div>

課題	保育環境				医療				社会環境				
対策	保育環境づくり			サービス基準の統一	医療サービスの向上		医療サービスの向上		イメージづくり			意識向上(男性)	社会環境支援
だれが？	行政	住民 & NPO	民間の ・保育園 ・幼稚園	保育園	行政	病院	行政	学校 & 病院	行政	行政 & 民間	行政 & 学校 & 住民	住民	行政
どのように？	情報交換の場(広報・子育てネットワーク) ・合同保育 ・保育園の合併 ・土曜保育	遊びの時間を設ける サークル等を作り、母と子が遊べる環境をつくる	特色ある保育環境づくりを行う	どこへ行っても同じサービスを受けられるようにする	制度づくり	電話救急相談を充実させる 保育士、助産士の無料個別訪問	奨学金制度づくり	認知活動を行う	里親制度の実施	情報の公開(CM等) テレビ等で外部から取り上げられるような活動を行う	新城市の良さを子供のころから植えつける	男性の料理教室のようなイベントを設ける	・住宅の補助 ・学費等の補助 働く場を増やす



過疎をどうする！山間地域に住み続けるには？

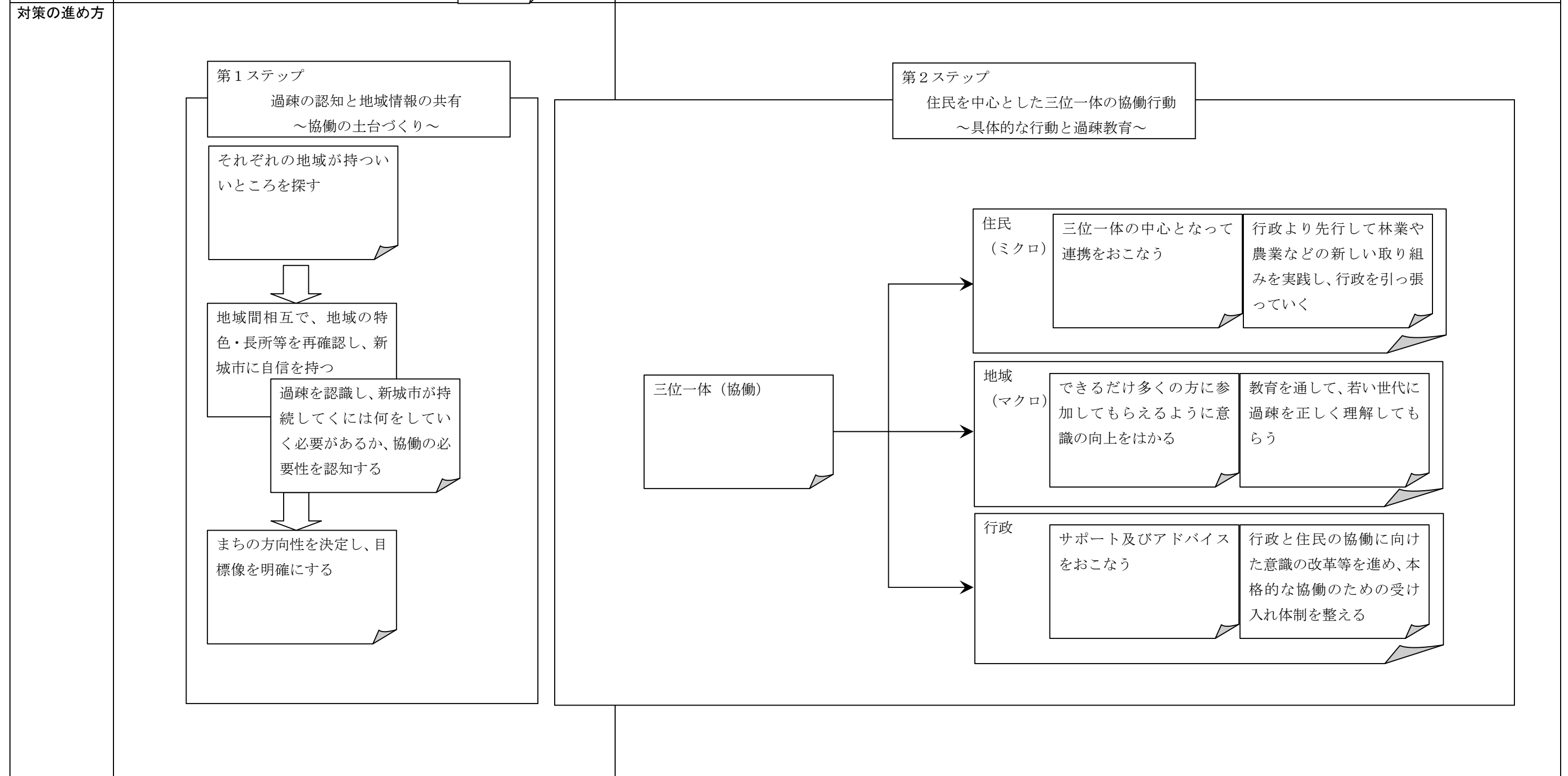
～市域全体のバランスある発展を考える～

課題名	集落機能の低下			住民意識の課題			快適な生活環境の欠如			
課題となること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生活支援システムがない。</li> <li>・村の行事が多すぎて、農業が大変。</li> <li>・若い人が減って、行事の担い手がいない。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人の意見を聴くべき。</li> <li>・自分のことしか考えない人が増えている。</li> <li>・子供の地元への愛着感がない。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤時間が長い、中山間地での幹線道路の整備が不十分。</li> <li>・快適な生活環境が整っていない、住宅、職場、病院などの施設が不十分。</li> </ul>			
対策とアイデア	居住政策の推進	郷土意識の高揚	全員参加型のイベント作り	新規住民の受け入れ体制の整備	地域の点検作業	地域の魅力作りとアピール	市民病院の再生	住環境の整備		地域にふさわしくない施設の規制
担い手は？ (下段の数字に対応しています)	<p>①住民</p> <p>②住民主体</p> <p>③行政、住民、専門家</p> <p>④行政と地主</p>	<p>①行政区、コミュニティ</p> <p>②住民（特に高齢者）</p> <p>③学校のOBなどの人的資源</p> <p>④住民全員参加</p>	<p>①住民主体</p>	<p>①行政</p> <p>②行政</p> <p>③住民</p>	<p>①行政区住民と専門家</p>	<p>①地域住民、NPO、専門家</p> <p>②分からない</p> <p>③商工会、観光協会</p>	<p>①市</p> <p>②国、県、市</p>	<p>①住民と行政の協働</p> <p>②行政</p> <p>③行政</p>	<p>④行政で</p> <p>⑤行政と住民（特に高齢者を生かす）</p> <p>⑥行政</p>	<p>①市</p>
方法は？	<p>①用地の提供。</p> <p>②住民意識アンケートの実施。</p> <p>③廃村前に対策を考える。</p> <p>④新たな公的住宅の提供、割安で広い住宅用地の整備。</p>	<p>①郷土について話し合う機会を設ける。</p> <p>②現代版の寺子屋を開講する。</p> <p>③郷土に関する知恵を紹介する機会をつくる。</p> <p>④三世代学級、ふるさと先生を行う。</p>	<p>①伝統行事等をきっかけに、親睦を推進する。</p>	<p>①休耕地、空き家を活用して新規住民の受入体制を作る。</p> <p>②情報発信の強化。</p> <p>③新規住民を地域行事に誘う。</p>	<p>①環境、防災、病院などの実態を明らかにする。</p>	<p>①点検を通して地域の魅力を発見し、アピールする。</p> <p>②宿泊施設の整備。</p> <p>③お客様をお招きする心を育てる。</p>	<p>①市内で働く医者を養成するための助成金制度。</p> <p>②開業医の活用等により、市内に対応できる体制の整備と情報発信。</p>	<p>①点検作業。</p> <p>②電話等の情報基盤の整備、道路整備。</p> <p>③使われていない企業用地、工業団地への企業誘致。</p>	<p>④森林資源の利用を促進する。</p> <p>⑤山村の生活が体験できる機会の提供と運営、施設の整備。</p> <p>⑥市内の高校に林業科を設ける。</p>	<p>①条例を作る。</p>

過疎をどうする！ 山間地域に住み続けるには

～市域全体のバランスある発展を考える～

課題名	意識・価値観の問題	生活における各拠点がない
課題となること	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 考え方を変える方法がない</li> <li>• まちに対する見方（地域の持つ特徴・課題等）に違いがある</li> <li>• 新規居住者への対応</li> <li>• 地域の人のもちづくりに対する期待感が少ない</li> <li>• 新規の居住者がすることが少ない（文化の整理が追いついていない）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 産業が少ない</li> <li>• 高校や大学など進学により新都市外に通学もしくは居住することになる・⇔Uターンしづらい</li> <li>• 住宅や土地が得られない</li> </ul>
対策とアイデア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 文化(情報)の発信とその準備</li> <li>• 長所を伸ばす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域の特長を活かした教育の場所</li> <li>• 生活などの協力・共存により不足を充足に導く</li> <li>• 交通の活性化</li> </ul>



過疎のどこが問題なのか

「協働」ってなに？

～住民自治社会における公共サービスの役割分担を考える～



## 第1次 新城市総合計画

平成20年4月

---

---

○発行 新城市

○編集 企画部 企画課

〒441-1392 愛知県新城市字東入船6-1

TEL. 0536 (23) 1111 (市代表)

FAX. 0536 (23) 7296